

インドネシア・ラジオ・テレビ放送
訓練センター計画打合せ調査団
報告書

昭和62年2月

国際協力事業団

海七

J R

87 - 038

JICA LIBRARY



1040193[3]

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 9. 28	108
登録 No.	16721	79
		SDC

序

インドネシア共和国は民族及び文化の多様性を有する島嶼国家であり、国家の統一、近代化の促進等の観点から、ラジオ・テレビを中心としてマス・メディアの果たす役割には極めて重大なものがある。

このためインドネシア政府は、国家開発計画の重点施策としてラジオ・テレビ放送網の拡充を図っているが、これに必要な技術及び管理部門の人材が不足しており、計画どおりの進捗が得られていないのが実情である。

このような背景から、インドネシア共和国政府は放送網拡充に伴う要員の訓練・養成を目的として、マルチメディア訓練センターの設立を計画し、昭和54年9月我が国に対し、その協力実施について要請してきた。

本要請に基づき、日本国政府は無償資金協力により施設・訓練機材を供与し、必要とされる放送要員の訓練・養成については、技術協力に対応することを決定、昭和58年10月討議議事録(R/D)に署名し、5年間にわたるインドネシア・ラジオ・テレビ放送訓練センタープロジェクトが開始された。翌59年11月に計画打合せ調査団が、又60年11月には巡回指導調査団が派遣されている。

今般、これらに引続きプロジェクト進捗状況の確認、今後の本プロジェクト運営についての協議、インドネシア側の将来計画の把握等を目的として、61年9月11日から9月20日まで国際協力事業団社会開発協力部次長阿部信司を団長とする計画打合せ調査団を派遣した。

本報告書は、その調査、協議結果をとりまとめたものである。

ここに本調査の任にあられた団員各位並びに調査団派遣に際し御協力をいただいた外務省、郵政省、NHK、(財)NHK放送研修センター、在インドネシア共和国日本国大使館の方々及びその他の関係者の方々に対して深甚の謝意を表する次第である。

昭和 62 年 2 月

国際協力事業団

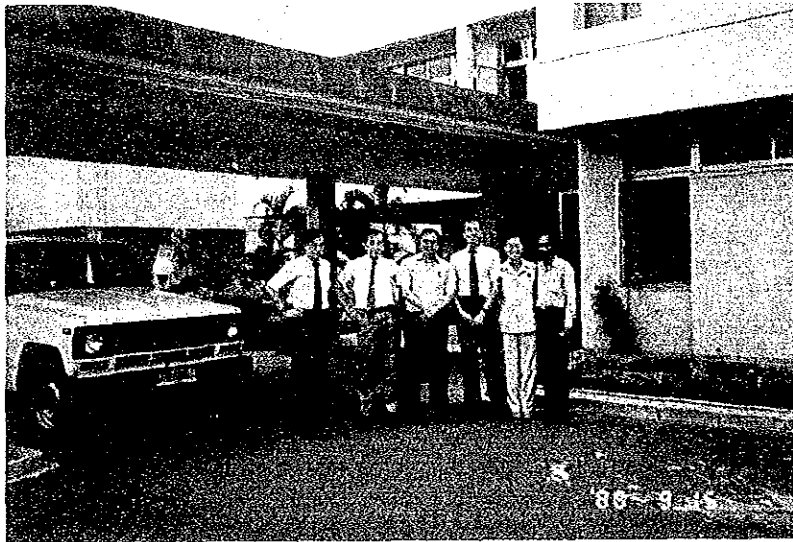
社会開発協力部

部長 山下 生比古



ミニッツ署名

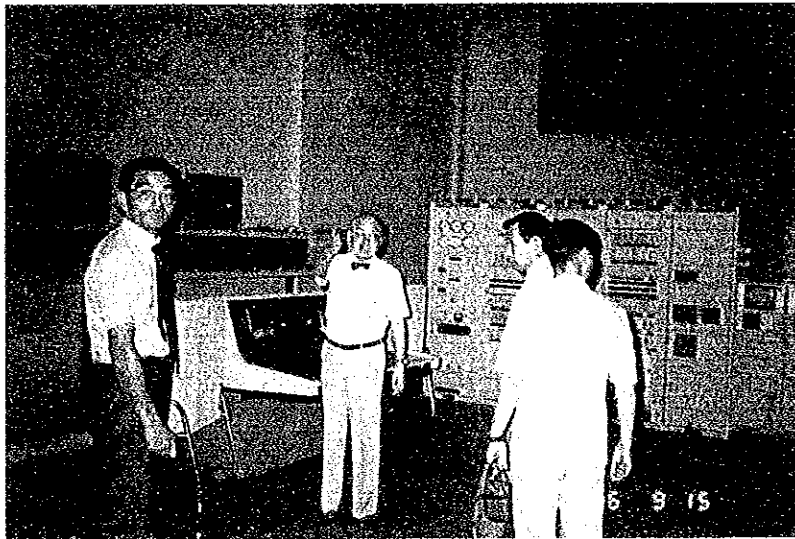
(阿部団長, カディール情報省事務次官)



ナシールMMTC教務部長
 渡邊団員
 畠添団員
 カラモイMMTC所長
 阿部団長
 湊団員



ミニッツ打合せ（於 情報省）



スタジオ視察（於 MMTC）

目 次

1. 計画打合せ調査団の派遣	
1-1. 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2. 調査団の構成	1
1-3. 調査日程	2
1-4. 主な面会者	2
2. 調査、協議結果要約	3
3. プロジェクト進捗状況	
3-1. 訓練コースの実施状況	6
3-2. カウンターパートの配置状況	10
3-3. 専門家の活動状況	10
3-4. 機材の活用及び維持管理状況	15
4. プロジェクト実施体制	
4-1. 組織と要員	19
4-2. 予 算	26
4-3. 施 設	27
5. 今後の発展計画と問題点	28
6. ミ ニ ッ ツ	33
7. 附 属 資 料	
7-1. ラジオ・テレビ放送訓練センター拡張計画（イ側試案）（英文）	45
7-2. THE STRUCTURE OF EDUCATION AND TRAINING AND ITS EQUIVALENT TO THE MANAGERIAL LEVEL	74
7-3. MMTC紹介パンフ2種（英文）	76
7-4. MMTC開所式におけるスハルト大統領スピーチ	89
7-5. プロジェクト実績線表	93

1. 計画打合せ調査団の派遣

1-1. 調査団派遣の経緯と目的

本プロジェクトは、インドネシア政府のラジオ・テレビ放送網拡充計画に対処するための放送要員の訓練・養成を目的としており、昭和58年10月21日のR/D署名後5ヶ年にわたり、番組編成、番組制作、報道、制作技術、運行技術、送信技術の各分野について協力を実施中である。

本ラジオ・テレビ放送訓練センターを包含するマルチ・メディア・トレーニング・センター（MMTC）は昭和60年7月31日に開所式を行ったが、その前日付の大統領令により、本センター研修終了者にはアカデミー（日本の短大相当）卒業に相当するディプロマ資格（年限に応じD1～D3の3段階）が賦与されることとなり、D1については従来の研修コースと若干のすり合わせの上既に実施されている。

昭和60年12月には、技術移転状況等と併せディプロマ制の概要を把握するため巡回指導調査団を派遣したが、今回の計画打合せ調査団は、前回調査の結果を踏まえ、次の事項について調査、協議を行うことを目的として、昭和62年9月11日から9月20日まで派遣されたものである。

- (1) ディプロマ制導入に伴うR/D（マスタープラン）の修正
- (2) ディプロマ制導入に係るイ側の将来計画
- (3) プロジェクト進捗状況
- (4) イ側実施体制

1-2. 調査団の構成

- | | | |
|--------------|-------|----------------------------------|
| (1) 団長（総括） | 阿部信司 | JICA社会開発協力部次長 |
| (2) 団員（協力企画） | 畠添隆幸 | 郵政省通信政策局国際協力課事務官 |
| (3) 団員（訓練計画） | 渡邊晋太郎 | (財)NHK放送研修センター研修事業部チーフ
ディレクター |
| (4) 団員（業務調整） | 湊芳郎 | JICA社会開発協力部海外センター課職員 |

1-3. 調査日程

日 順	月 日	曜日	移動及び業務
第1日	9月11日	(木)	東京 → ジャカルタ (JL721)
2日	9月12日	(金)	情報省表敬(次官, RTP総局長), JICA事務所打合せ
3日	9月13日	(土)	ジャカルタ → ショクジャカルタ 専門家と打合せ
4日	9月14日	(日)	団内打合せ
5日	9月15日	(月)	MMTCとの打合せ, 施設機材視察
6日	9月16日	(火)	MMTCとの打合せ
7日	9月17日	(水)	ショクジャカルタ → ジャカルタ
8日	9月18日	(木)	情報省との打合せ, ミニッツ案作成
9日	9月19日	(金)	ミニッツ署名(次官, 団長)
10日	9月20日	(土)	ジャカルタ → 東京 (GA874, CX500)

1-4. 主な面会者

1. インドネシア側

- (1) Abdul Kadir 情報省次官
- (2) Subrata RTP総局長
- (3) B. Sembiring " 次長
- (4) Willy A. Karamoy MMTC所長
- (5) Togar Lumbanraja " 総務部長
- (6) Halim Nasir " 教務部長
- (7) Kosasih " 技術部長
- (8) Monny S. Manangka 情報省海外協力課長

2. 日本側

- (1) 遠藤英夫 JICAインドネシア事務所長
- (2) 西尾久光 " 所員
- (3) 中野正三 放送管理専門家(単発)
- (4) 白石克己 プロジェクト・チームリーダー
- (5) 坂元多 " 専門家
- (6) 佐藤文雄 " "
- (7) 館和夫 " "
- (8) 福岡薫 " "
- (9) 浦上浩三 " "

2. 調査、協議結果要約

(1) ディプロマ制導入に伴う日本側協力内容の変更

- ① ベーシック制 (B1~B3) のマスタープランをD Iのマスタープランに差替え、D Iについては引き続き技術指導を行う。
- ② D II, D IIIについては、先方は夫々R/D期間終了後の1989年度及び1990年度から開講を予定しており、日本側はその事前準備としてカリキュラム策定、テキスト作成等に関し、アドバイスをを行う。
- ③ 但し、上記①②の協力は、R/Dに基づく協力計画の範囲内で行われる。

(2) プロジェクト実施状況

- ① 第1回研修 (1985年7月~1986年2月) は番組制作、報道、制作技術、送信技術の4コース計72名が受講し、うち64名が合格したが、研修期間が不足していたため、この64名は来年度2学期分 (6ヶ月) につき再研修を行う。
- ② 第2回研修は、D Iカリキュラムに則って番組制作、制作技術の2コース計40名が受講中であり、イ側の手で順調に運営されている。このほか、TVRI, RRIの研修所で実施される予定だった送信技術の短期研修コース (合計49名) がMMTCで実施されている。
- ③ 専門家は、コースの運営、教授法等に係る助言、指導を行っているほか、1987年度に第2回TOTを計画している。
- ④ 供与機材は60年度分までは全て引取済で、活用及び管理状況も良好である。

(3) イ側の実施体制

① 1986年度の予算総額は次の通り

運営予算 (大蔵省)	4億5,460万ルピア
研修予算 (バベナス)	1億8,086万ルピア
うち D Iコース	1億1,066万ルピア
{ 短期コース	7,020万ルピア
}	
合計	6億3,546万ルピア

イ. MMTCとしては、D Iコースは5コースの実施を要求していたが、緊縮財政のあおりで2コース分しか認められなかった。

ロ. 昭和61年度供与機材の引き取りについても、予算不足のため大幅に遅れる可能性がある。

ハ、専門家の旅費の確保も少くとも今年度分は不可能である。

- ② イ側負担による施設のうち、食堂・ドミトリー（2棟262ベッド）・図書館は完成済。スポーツホールとモスクは来年度以降着手の予定。
- ③ 従来、正式に決定されていなかったMMTCの組織が、情報省次官直属、3部制（総務、教務、技術）の形で発令された。これに伴ない、今回の調査で、プロジェクト組織図を従来のもの（5部制を想定）と差し換えた。又、組織・職員の正式発令により、従来非常勤の者がほとんどであったカウンターパートも大半がMMTCの常勤職員となった。
- ④ ディプロマコース実施に係る教育文化省の役割は、カリキュラムの承認及びディプロマ資格の認定（コース終了時に、教育文化省と情報省で構成する試験実施委員会で合否を決定する）である。

(4) 今後の実施計画

① 1987年度実施計画

D Iコース全5コース（24名×5＝120名）実施するとともに、第1期生合格者64名の不足分の研修（第2学期）を合せて実施する予定。このための予算として、運営費28億7,000万ルピア、研修費14億6,000万ルピアの計43億3,000万ルピア（86年度の約7倍）を要求している。

② D II, D IIIの実実施計画

イ、D IIについては1989年度から8コース、D IIIについては1990年度から11コースを開講する予定。

（ただし、D II, D IIIの開講に必要な施設・機材が完備されることを前提としている。）

ロ、D I～D IIIの実施モデルパターンは次の通り。

年 度	D I (人)	D II (人)	D III (人)	年度合計
第1年度	120			120人
第2年度	120			120人
第3年度	120	140		260人
第4年度	120		60	180人
第5年度	120	140		260人
第6年度	120		60	180人

※2年分のD I終了者240人のうち140人がD IIへ進み、D II 140人のうち60人がD IIIへ進級する。

ハ. DⅠ～DⅢを実施した場合、教官数(実数)は合計151人を必要としており、そのうち40人程度は大学等からの外部講師としている。又、DⅢの教官は大卒以上の資格を必要とするので、MMTCの教官、DⅢの卒業生、情報省内の教官候補生に国内及び海外での大卒以上の資格を取らせたり、外部から有資格の教官を招聘したりすることとで対処する。

ニ. DⅠ～DⅢを実施した場合、ディプロマ研修生とTVRI、RRⅠ等からの短期研修生を合せて32クラス(1クラス24人)となるが、1クラス分のランニングコストは年間約1億9,467万ルピアなので合計62億ルピア(86年度の34倍)が必要である。

(5) 追加無償、技協延長について

先方は、チームに対しDⅡ、DⅢ実施のための追加無償、技協延長を要請したが、チームはこれに対し正式要請を受理した後検討する旨回答、イ側も了承した。

3. プロジェクト進捗状況

3-1. 訓練コースの実施状況

MMTCでは、情報省における放送要員の基礎研修を行うこととし、1985年7月31日の開所に向け準備が進められていたところ、直前の同年7月30日に大統領令により同研修を研修年限(1~3年)に応じて学位(ディプロマI~III)を与えるアカデミーとしての扱いをすることとされた。これは、教育文化省が1982年にインドネシア政府関係各省の研修所に対して活用されるよう認定したシステムである。これに伴い、従来のベーシック制(BI~III, 11ヶ月)による研修をディプロマI(1年間, 2学期制)としての訓練カリキュラムに修正・調整の上、実施する必要が生じてきた。

(1) 第1回研修(85年7月~86年2月)

本コースは、ディプロマ制に基づく訓練カリキュラムに組替える時間的余裕が全くなかったため、ベーシック制のカリキュラムにより実施された。72名(番組制作12名, 報道12名, 制作技術29名, 送信技術19名)が受講し、うち64名が最終試験に合格して修了書を得た。しかしながら、研修期間が不足のため、ディプロマIの資格は得られず、このため、第3回研修(87年度)の第2学期部分を再履修することとなっている。

(2) 第2回研修(86年4月~87年3月)

原油価格の低迷を主な原因とする不況により、国家開発予算が大幅削減されたため本来5コース実施予定のところ、今年度は、2コース40名(番組制作, 制作技術, 各20名)しか実施されていない。

当初のベーシック制の研修を、今年度からディプロマ制度に基づくDI研修として現在実施されている。これによるカリキュラムの修正については、科目毎の時間数の調整を行った外は、ベーシック制研修と大きな変更はない。現在のDIのコース毎の研修科目は別紙のとおりとなっている。

なお、上記のディプロマコースとは別に、ジャカルタのTVRI及びRRIで訓練予定だった送信技術の短期コース(テレビ: 24名3ヶ月, ラジオ: 25名8週間)が、インドネシア側の手で行われており、年内に同様のコースをもう一度実施する計画である。

RADIO - TELEVISION PRODUCTION

NO.	SUBJECTS	SEMESTER/CREDIT
I.	<u>General Subjects</u>	
1.	Religion	I / 2
2.	Pancasila, UUD 1945, GBHN	I / 2
3.	Methodologi Research	II / 2
4.	Indonesian Language	I / 2
5.	English I (General)	I / 2
6.	English II (Profession)	II / 2
II.	<u>Supporting Subjects</u>	
7.	Communication - Mass Communication - Basic Journalist - Public Relation - Public Speech - Audience Research	II / 2
8.	Basic Management	I / 2
9.	Basic Program Production TV	I / 4
10.	Radio - Television Programme Planning	II / 2
III.	<u>Main Subjects</u>	
11.	Radio - Television Script Writing - Dramaturgy	I / 2
12.	Radio - Television Production Management	II / 2
13.	Radio - Television Production	II / 4
14.	Aesthetics and Artistic of Radio - TV Program Production - Lighting Colorimetry - Artistic Design, Music theory - Sound design, Editing	I / 6
15.	Introductory Practice	I / 2
16.	Radio - Television Production Practice	II / 6
		44 Credit

D I P L O M A I

PRODUCTION ENGINEERING

NO.	SUBJECTS	SEMESTER/CREDIT
I.	<u>General Subjects</u>	
1.	Religion	I / 2
2.	Pancasila, UUD 1945, GBHN	I / 2
3.	Methodologi Research	II / 2
4.	Indonesian Language	I / 2
5.	English I	I / 2
6.	English II	II / 2
II.	<u>Supporting Subjects</u>	
7.	Mathematics	I / 2
8.	Electrotechnics	I / 3
	- Electro technic	
	- Electro Analog technic system	
	- Electro Digital technic system	
9.	Audio - Video Technique I	I / 2
10.	Audio - Video Technique II	II / 2
III.	<u>Main Subjects</u>	
11.	Measurement technique	II / 2
12.	Radio - TV Studio Equipment Techniques I	I / 2
13.	Radio - TV Studio Equipment Techniques II	II / 2
14.	Radio - TV Production - Music theory (Sound Arrange & Design)	I / 3
15.	Lighting and Colorimetry	I / 2
16.	Audio and Video Recording Equipment Techniques	II / 4
17.	Radio - TV Production Practice I	I / 2
18.	Radio - TV Production Practice II (Include Outeside Practice)	II / 6
		44 Credit

RENCANA PROGRAM KURIKULUM DEPLOMA I

DIPLOMA I TEKNIK MEDIA

YOGYAKARTA

KURSUS : RADIO - TELEVISI

PROGRAM STUDI : (D I I)

1. Teknik Operatif

Program/Compilation (D.I - 01)	Program/Production (D.I - 02)	Film Production (D.I - 03)	News and Current Affairs New Reporting (D.I - 04)	Station and Media Control Engineering (D.I - 05)	Film Production and Distribution Engineering (D.I - 06)	Transmission Engineering (D.I - 07)
<p>M E D I A (General Course)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agama 2. Pancasila 3. Pengantar Metodologi Riset 4. Bahasa Indonesia 5. Bahasa Inggris I 6. Bahasa Inggris II
<p>M E D I A (Basic Professional)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ilmiah Komunikasi 2. Penelitian Manajemen 3. Teknik Penulisan Berita dan R- TV 4. Pengantar Produksi Acara R- TV 5. Public Relation 6. Perencanaan Produksi Acara 7. Teknik Editing 8. Fasilitas Siaran 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ilmiah Komunikasi 2. Penelitian Manajemen 3. Teknik Penulisan Berita dan R- TV 4. Pengantar Produksi Acara R- TV 5. Public Relation 6. Perencanaan Produksi Acara 7. Teknik Editing 8. Fasilitas Siaran 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ilmiah Komunikasi 2. Penelitian Manajemen 3. Teknik Penulisan Berita dan R- TV 4. Pengantar Produksi Acara R- TV 5. Public Relation 6. Perencanaan Produksi Acara 7. Teknik Editing 8. Fasilitas Siaran 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Dasar-dasar Jurnalistik 2. Komunikasi Massa 3. Public Relation 4. Manajemen 5. Teknik Penulisan Berita dan R- TV 6. Berita dalam Siaran - Radio - TV 7. Konektor R- TV 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Matematika 2. Dasar Teknik Listrik dan Mekanik 3. Dasar Elektronika 4. Kimia II (Mata Pelajaran Gambar) 5. Dasar Teknik Audio 6. Dasar Teknik Video 7. Teknik Radio Frekuensi 8. Dasar Teknik Film 9. Dasar Tata Cahaya 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Matematika 2. Dasar Teknik Listrik dan Mekanik 3. Dasar Elektronika 4. Kimia II (Mata Pelajaran Gambar) 5. Dasar Teknik Audio 6. Dasar Teknik Video 7. Sematomek 8. Film Processing 9. Masing dan Sinteromisasi 10. Teknik Proyeksi Film- TV 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Matematika 2. Dasar Teknik Listrik dan Mekanik 3. Dasar Teknik Elektronika 4. Kimia II (Mata Pelajaran Gambar) 5. Dasar Teknik Audio 6. Dasar Teknik Video 7. Dasar Teknik Radio Frekuensi
<p>R e p o r t a s i (General Course)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Penulisan Berita, Analisis Untuk R- TV 2. Hal Cita dan Perantara Penyiaran 3. Manajemen dalam Penyelenggaraan Informasi 4. Perencanaan Program R- TV 5. Perencanaan Program (latihan) 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Riset Senteron R- TV 2. Berita dan Artistik 3. Produksi Acara R- TV 4. Colomastri 5. Manajemen Produksi R- TV 6. Praktek Kemanduluan 7. Praktek Produksi R- TV 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Masing dan Sinteromisasi 2. Film Printing 3. Teknik Animasi 4. Teknik Proyeksi Film 5. Trouble Shooting dan Intenance Perlatan Laboratorium Film 6. Praktek Produksi Film 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Laporan dan dan Alat ukur 2. Teknik Perlatan Studio R- TV 3. Teknik Perlatan Sinar X-ray 4. Teknik Akustik dan Audio Sound Efek 5. Teknik Perlatan Sinar X-ray 6. VCR 7. Teknik Kamera TV 8. Latihan Teknik Produksi R- TV 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pengukuran dan Alat Ukur 2. Teknik Perlatan Studio R- TV 3. Teknik Perlatan Sinar X-ray 4. Mata Cahaya dan Colori 5. Teknik silet Perlatan Gambar dan Suara 6. Produksi Acara R- TV 7. Praktek Perlatan Produksi R- TV. I 8. Praktek Perlatan Produksi R- TV. II 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Pengukuran dan Alat Ukur 2. Antena dan Propagasi gelombang Radio 3. Transmisi R- TV 4. Trouble Shooting pada Transmisi Radio 5. Praktek Latihan pada Transmisi Radio 6. Praktek Latihan Pada Perencanaan TV. 	<p>M E D I A</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Matematika 2. Dasar Teknik Listrik dan Mekanik 3. Dasar Teknik Elektronika 4. Kimia II (Mata Pelajaran Gambar) 5. Dasar Teknik Audio 6. Dasar Teknik Video 7. Dasar Teknik Radio Frekuensi

3-2. カウンターパートの配置状況

MMTCは85年7月31日の開所式をもってスタートしたが、ディプロマ制導入もからんで正式な組織(人事)発令は大幅に遅れ、教官のほとんどは国営テレビ局(TVRI)研修センター、国営ラジオ局(RRI)研修センター等から出張してくる非常勤スタッフでまかなわれるという状況が長らく続いた。従って、専門家の技術移転の対象たるカウンターパートも、若干の常勤職員を除き、不安定な状況にあった。

しかし、86年2月17日にWilly Karamoy氏が所長に発令されたのに続き、同年5月9日には部課長級が全員発令され、現在は常勤スタッフが約60名に達している。しかも、常勤教官の多くは、MMTCスタッフとして発令を受ける以前から非常勤教官として訓練を担当していた者であり、結果的にはカウンターパートに対する技術移転の継続性はほぼ保てたと考えられる。

特に58年度から60年度まで本プロジェクトのカウンターパート枠により日本で研修を受けた13名については、国営ラジオのアナウンサーとなった1名を除き全員がMMTCへ配属されており、いずれも本プロジェクトのKey Personとして日本での研修の成果を生かしている。

勿論、現在でも常勤職員の数は必ずしも十分ではなく、ニュース編集のカウンターパートが庶務課長兼務であったり、1人何役かの例も多く見受けられるが、根本的には1側の人材不足の故であり、日本的な細分化された専門職のイメージを基に現状を批評しても余り意味がないように思われる。

各専門家のカウンターパートは、上記のような事情もあり、必ずしも全員が専門家ごとに明確に区分けはされていないが、夫々中核となるカウンターパートは次頁のとおりである

3-3. 専門家の活動状況

日本人専門家の業務は、折りをみて個別にコースの運営や技術内容、供与機材の利用等につき助言、指導を行っている他、概ね次のようなものが挙げられる。

- ① 管理運営に関する指導、助言(DⅡ、DⅢ対応案を含む)
- ② 教官訓練(T.O.T., 示範授業 他)
- ③ カリキュラム、教材、教授法の作成指導(ベーシックコースとDⅠコースのすり合わせ 他)

1) センター全体の管理運営については、ディプロマ制の導入に伴い、大幅な変更を余儀なくされる。DⅠコースは、従来のベーシックコースとほぼ同様であったので、日本人専門家の助言、指導に基づき内容的に若干のすり合わせにより実施中であり、施設、機材、人員等については現行のままで特に支障はない。

The counterpart of Japanese Experts

No.	Name	Position	In the field of:	Counterpart to:
1.	Halim Nasir	Head Teaching Division	Program Compilation	Mr. K. Shiraishi
2.	Bambang Winarso, BA	Head Section of Teaching Administration	Program Production	Mr. I. Sakamoto
3.	Drs. BMO. Prayoga	Coordinator of Instruc- tor	News Reporting	Mr. K. Fukuoka
4.	Sunaryo, BA	Head Section of Studio Equipment Engineering	Studio Engineering	Mr. T. Kato
5.	Djoko Yunianto	Instructor	Transmission	Mr. F. Sato
6.	Maurice. S. SH	Head General Sub Division	News editing	M. F. Takanashi (Short Term Expert)
7.	Drs. Istiyo Hartono	Instructor	Studio Lighting	M. M. Takeuchi (Short Term Expert)
8.	Suharno	Instructor	Production Engineering	Mr. K. Tate

しかしながら、DⅡ、DⅢの実施については、MMTCの性格自体を変えるものであり、コース内容はもとより、施設、機材、要員、予算他あらゆる面で十分な検討が必要である。DⅡ、DⅢについては、イ側は既に追加無償、技術協力の延長を要請越しているが、その前提たる拡大の基本計画は、日本人専門家の指導、助言を基に作成されたものである。

そもそもディプロマ制の導入は、イ側がFeasibility Studyもなく一方的に決定したものであるが、これを実現化するには専門家の指導が不可欠である。

このため、厳密にはR/Dに反することではあるが、実際にはディプロマ制の実施に専門家が関与してきた。今回の調査団のミニッツにより、現状を追認する形でR/Dを修正したので、今後、専門家の業務のうち、DⅡ、DⅢの実施へ向けての業務の比重がより一層大きくなるものと思われる。

2) 教官の養成については、主に各専門家が個別に適宜、指導、助言を与える形で行われてきた。示範授業も時折実施されていたが、個々の専門家の判断により随時実施されただけで、専門家チームとして統一的なものではなかった。このため、分野により技術移転の進度に差異が生じており、イ側の強い要望もあって、1986年11月から示範授業を定例化し、全専門家が最低月1回は授業を行うこととしている。具体的には、各種教授法(レクチャー、ディスカッション、視聴覚法他)を取り入れ、インストラクターが見学する形で実施される。

当面の実施スケジュールは次のとおり。

JICA EXPERTS
TIME SCHEDULE OF LECTURE FOR DIPLOMA I

NO.	NAME	DATE / DAY - TIME	OBJECT
1.	Mr. SHIRAIISHI	1. November 22, 1986 Saturday, 12.40 - 14.25 PM	1. Programme Planning
		2. December 13, 1986 Saturday 12.40 - 14.25 PM	2. Programme Planning
2.	Mr. FUKUOKA	1. October 27, 1986 Monday, 08.00 - 09.45 AM	1. Communication
		2. December 8, 1986 Monday, 08.00 - 09.45 AM	2. Communication
3.	Mr. SAKAMOTO	1. November 15, 1986 Saturday, 09.55 - 11.40 AM	1. R - TV Production
		2. December 6, 1986 Saturday, 09.55 - 11.40 AM	2. R - TV Production
4.	Mr. FUMIO SATO	1. December 15, 1986 Monday, 08.00 - 09.45 AM	1. Measurement
5.	Mr. TATE Mr. KATO	1. November 22, 1986 Saturday, 12.40 - 14.25 PM	1. Studio Equipment
		2. December 20, 1986 Saturday, 12.40 - 14.25 PM	2. Studio Equipment

また、T.O.T. (Training of Trainers : 教官訓練) については、第1回 (85年3月) で不十分だった教授法各論と授業運営上の基本的技術を中心に、第2回を87年度早期に予定している。第2回の計画概要は次のとおりである。

A PRELIMINARY DRAFT FOR THE 2nd T.O.T.

COURSE OBJECTIVES

After finishing the course;

Participants should be able to have a better understanding of the specific teaching methods (1st week) and to acquire the effective techniques of conducting classes for higher graders (2nd week).

9:00 10:45 11:00 12:15 1:15 2:30 2:45 4:00

MON	Opening of the course 1. Orientation and briefing 2. Broadcasting in Indonesia and the role of MMTC (commemorative lecture including Q and A)	1. Getting to know you 2. Educational system component and the scope of teaching techniques (review and preview)
TUE	Teaching Methodology (1) General Techniques	Practice (1) Lecture (including how to use black board etc.)
WED	Teaching Methodology (2) People based Techniques	Practice (2) Discussion (including role play and simulation)
THU	Teaching Methodology (3) Individualized Techniques	Practice (3) Independent study (including self-instruction)
FRI	Teaching Methodology (4) Programed Instruction Techniques	
SAT	Teaching Methodology (5) Setting Based Techniques	Practice (4) Programed Materials (including CAI materials)

THE SECOND WEEK

MON	Public Speaking (Speech is essential to teaching)	Practice (5) Wat to say it, and How to say it.
	Motivation Technique (Motivation is the starting point in learning)	Practice (6) Preparation for the Evaluation Session on Saturday (Public Speaking, English is preferable)
WED	Utilization of OHP TV camera as a weapon for making teaching materials	Practice (7) Handling of OHP Practice (8) Handling of TV camera for every body
FRI	Effective Communication (Teach-Learn experience is really the series of communication)	
SAT	Evaluation Session (1) (Public Speaking under a given topic)	Evaluation Session (2) (ditto)

3) カリキュラム開発, 教材開発, 教授法の作成, 指導については, 総じて当初計画に比べ遅れている。これは, 突如ディプロマ制が導入されたため, ベーシックコースとDⅠコースのすり合わせに全力を注がざるを得なかったためで, 現在は, DⅠコースはほぼ順調に進んでおり, 今後はDⅠに係るカリキュラム, 教材, 教授法の補正, 改善からDⅡ, DⅢに係るカリキュラム, 教材の開発へ重点が移っていくものと思われる。

なお, 86年度の訓練コースは, イ側予算の都合で, 番組制作, 制作技術の2コースしか実施されておらず, 日本人専門家の技術指導にも影響を与えている。勿論, 専門家が直接生徒に講義する訳ではないが, 当初の技術移転計画を満了するためには, R/Dに定めた5コースの実施が前提であり, 予算, 人員確保のためのイ側の一層の努力が期待される。

4) この他, 短期専門家については60年度までに延べ5名を派遣, 61年度に3名を派遣することとなっているが, いずれも極めて効果的との評価をイ側から受けている。

特に短期専門家が現地でカウンターパートを指導した後, そのカウンターパートを研修員として日本に受入れるという方式は, 技術移転をより確実にするもので, 大きな成果を挙げている。なお, 61年度の3名については, 従来の個別指導に加え, 多数を対象とした訓練コースの開設を予定している。

3-4. 機材の活用及び維持管理状況

プロジェクト開始後61年度までの供与機材は別紙のとおりであり, すべて年度内に引取り, 検収を終了予定である。

引取りはほぼ順調に行われている。又, その維持管理状況も概して良好であり, 細心の注意を持って使用しているとの印象を受けた。

会議の席上, MMTCカラモイ所長より, イ側のコンサイニーが情報省次官となっているためMMTCまでの引取り手続きに時間がかかり, 倉庫料等経費もかさむのでコンサイニーをMMTC所長に変更してほしい旨要望があったが, これに対し日本側は, 先ず情報省と協議の上, イ側の統一見解として要望を出すよう回答した。

なお, 60年度供与機材中, 中波送信機の故障に関し, 担当専門家より, 機材が故障した場合, 現地での十分な対応は経費等の面から困難なことが多く, 「結局, 外地向けのものはシンプルなものが良い。多少時代遅れでも十分に熟成した設計による分り易い構成のものでなければならない。」との指摘があった。今後, 機材の購入に当たって考慮する必要があるものと思われる。

(別紙)

昭和59年度供与機材

№	機 材 名
1	共用事務機材
1-1	コピーマシン
1-2	タイプライター
1-3	電 卓
1-4	月予定表板
1-5	パーソナルコンピューター及びワードプロセッサ
1-6	プロッター
2	車 両
2-1	自 動 車
3	測 定 機 器
3-1	電解強度測定器
3-2	ベクトルインピーダンスメーター
3-3	高電圧高帯域プローブ
3-4	周波数変換器
3-5	周波数ユニット
3-6	低周波特性測定器
3-7	オシロスコープ
4	番組制作用機材
4-1	ベータームービーカメラ
4-2	ベーターVTR
4-3	カラーモニター
4-4	ビデオカセットテープ
4-5	充 電 器
4-6	予備バッテリー
4-7	ス ピ ー カ ー
4-8	オーディオケーブル
4-9	各種部品, コード, 工具

昭和60年度供与機材

№	機 材 名	№	機 材 名
1	番組制作用機材	7	教室用機材
1-1	VHS-VTR	7-1	ホワイトボード
1-2	ベータマックスVTR	7-2	O H P
1-3	UマチックVTR (NTSC)	7-3	スライドプロジェクター
1-4	” (PAL)	7-4	VHS・VTR
1-5	カラービデオモニター	7-5	β ・VTR
1-6	音声モニター	7-6	Uマチック・VTR
		7-7	VHS・VTRカセットテープ
2	共用事務機材	7-8	β ・VTRカセットテープ
2-1	ホワイトボード	7-9	Uマチック・VTRカセットテープ
2-2	O H P	7-10	カラーモニター
2-3	スライドプロジェクター		
2-4	電 卓	8	番組制作用機材
		8-1	音声テープレコーダー
3	フィルム現像機材	8-2	音声テープ編集機
3-1	ボラロイドカメラ	8-3	音声用オープンテープ
3-2	双 眼 鏡	8-4	ベータカムVTR再生器
3-3	カセットテープレコーダー		
3-4	カラーチャート	9	送信用機材
3-5	電気冷蔵庫	9-1	FMステレオ送信機
		9-2	中波AM送信機
4	撮影用機材	9-3	中波二重給電装置
4-1	カラーカメラ	9-4	UHFアンテナ共用装置
4-2	ズームレンズ	9-5	SSB送信機
4-3	電 池	9-6	SSB受信機
4-4	充 電 器	9-7	リニアアンプ
4-5	三脚及雲台		
4-6	ビデオカセットテープ	10	実習用機材
		10-1	マイクロウェーブ実習用セット
5	教育用機材	10-2	波形モニター
5-1	教育実習機器	10-3	ファンクションゼネレーター
5-2	回路テスター	10-4	簡易電測器
5-3	ディップメーター	10-5	スワイプゼネレーターユニット
5-4	高周波ブリッジ	10-6	オンロスコープ
		10-7	ワードプロセッサ用ソフト
6	テレビ中継車機材		
6-1	カラーテレビカメラ	11	音声中継用機材, 車輛
6-2	ビデオ機器	11-1	放送中継車用FM送信機
6-3	オーディオ機器	11-2	放送中継車用FM受信機
6-4	モニター機器	11-3	ラジオカー
6-5	VTR装置	11-4	マイクロバス
6-6	送受信機器		
6-7	通信機器		
6-8	車 両		
6-9	消耗部品, 修理用品		

昭和 61 年度 供与 機材

№	機 材 名	№	機 材 名
1	テレビ中継車機材	4	テレビ用アンテナ部品
1-1	カラーテレビカメラ	4-1	アンテナ部品
1-2	ビデオ機器	4-2	給電線部品
1-3	オーディオ機器	4-3	デハイドレーター
1-4	モニター機器		
1-5	V T R 装 置	5	T V 方式変換装置
1-6	送受信機器		
1-7	通信機器		
1-8	車 両		
1-9	消耗部品, 修理部品		
2	番組制作用機材		
2-1	編 集 器		
2-2	UマチックVTR		
2-3	T B C		
2-4	ベータカムVTR		
2-5	9ピンインターフェイス		
2-6	ボリュームボックス		
2-7	VTRモニター		
2-8	編 集 卓		
2-9	モニターデスク		
2-10	サイドラック		
2-11	音声ミキサー		
2-12	音声モニター		
2-13	マ イ ク		
2-14	その他各種部品		
3	測 定 機 器		
3-1	ステレオFM放送用測定装置		
3-2	低周波特性測定器		
3-3	オンロスコープ		
3-4	簡易低周波発振器		
3-5	可変抵抗減衰器		

4. プロジェクト実施体制

4-1. MMTCの組織と要員

1985年7月末の開所式当時は、情報省ラジオ・テレビ・フィルム総局管轄下の暫定組織として発足したMMTCであったが、86年2月、情報省職員訓練本部の一機関として正式発令された。これに伴ってDRS, Willy Karammoy が所長に就任し、4月に入って部長、課長、一般職員あわせて約60名のスタッフが発令され、現在に至っている。

正式発令された現行組織は、ジャカルタにある2つの放送関係の訓練センター（TVRI-T/CおよびRRI-T/C）と同じ構造の組織、即ち総務、教務、技術の3部制となっている。これは日本側がR/D調査団に先立つ長期調査以来、5部制を機会あるごとに訴えてきた経緯とMMTCの所長のechelonは上記2つのセンター長より高い者を当てるという85年7月30日の大統領令を考えると予想外の感を免れない。財政事情等あったにせよ、特に調査・開発部門を欠いていることは、プロジェクトの今後の発展にとって大きな制約要因となることが心配される。

上記約60名のスタッフのうち、約半数はジャカルタのテレビ局、ラジオ局、TVRI-T/C、RRI-T/Cおよび情報省からの転勤組、残りの半数は地元のテレビ局、ラジオ局からリクルートされている。このほか、地方のテレビ局から移って来た者も2～3いるようである。なお、R/D以後、昭和61年3月末までに日本でカウンターパート研修を受けた14名のうち、13名までMMTCに配属されてきている。

これらを職種との関係から見てみると管理職、教官といった基幹的職位は殆ど転勤組で占められ、地元組は主として補助的業務や雑務に従事している。

教官数は25名。このうち約半数だけが専任教官、残りは部長、課長、上級スタッフとのかけもちである。教官数25という数は、MMTCが開設される前までのTVRI-T/Cの教官とRRI-T/Cの教官の数の合計と正確に一致する。25という数は、この国がMMTC運営のために割き得る、現状でのリミットを示している。ちなみに現在、ジャカルタにある上記2つの訓練センターは事実上、機能を停止しているように見える。

若干、横道にそれるが、情報省R・T・F総局のスピン副総局長は上記二つの訓練センターをどう位置づけていくかについて、頭を痛めているとのことであった。もし再びドイツの援助を取りつけて両訓練センターの機能回復を図ることになれば、MMTCの運営にも影響がおよぶであろう。ちなみに昨年（85年）の大火で消失したRRI（国営ラジオ）ジャカルタ中央局の施設はアメリカの援助で復興されることになったと聞く。また、TVRI（国営テレビ）ジャカルタ中央局のプロダクション・コンプレックスはドイツの機材によって整備される予定とのこと。MMTCとは直接の関係はないが、イ側の動きには十分気を配る必要があるだろう。

MMTCの要員配置でもう一つ特徴的なことは、かけ持ちの多用である。課長が教官を兼ねたり、教務部の職員が教官を兼ねたり、それも一人二役どころか、三役も兼ねたり、ということが当たり前のこととして行われている。この辺りに人材不足という問題がよく表われている。だが、こうした状況は必ずしも悪くはない。能力を発揮する機会がそれだけ多いからである。要は能力を発揮した人間を評価し得るシステムがあるかないかということと、バックアップしあえる信頼関係、人間関係があるかどうかであろう。そして、目下のところ、カROMEI所長の指導よろしきを得て、スタッフ全員が高いモラルで仕事に取り組んでいるように見受けられた。

MMTCの教官数は、十分なのか不十分なのかといったことが日本側の関係者からよく聞かれる。先ずイ側の考え方を示す。

(1) イ側の考え方

D IをR/Dどおり実施するための教官数は51名。その内訳は、一般科目と基礎科目あわせて13名、専門科目38名とはじいている。

彼等の試算方式は次のとおりである。

- ① D I資格を取得させるための平均必要単位数は42。
- ② アカデミーの場合における教官と単位数の比率は1 : 3、従って42単位を教育するために必要な教官数は、14名($42 \times 1/3 = 14$)。
- ③ MMTCが実施するコースは5コース。従って、全コース実施に必要な教官数は70名($14 \times 5 = 70$)。
- ④ カリキュラムの約45%は一般科目と基礎科目、55%は専門科目。従って、③の70名は一般科目と基礎科目の32名と専門科目の38名に分けられる。
- ⑤ しかし、このうち一般科目と基礎科目は必ずしもコース毎に実施する必要はなく、技術職種と番組職種の2グループ程度に分けての合同授業が可能なので、ギリギリの必要教官数は13名である($32 \times 2/5 = 12.8$)。
- ⑥ 従って、全コース実施に必要なギリギリの教官数は51名($38 + 13$)。

(2) イ側の考え方に対する評価

一般科目・基礎科目については日本側が関知するところではなく、また、カネさえあれば比較的容易に外部からのリクルートが可能と思われるので、専門科目の教官についてのみ言及する。即ちイ側が必要と考えている38名と現有勢力25名の差、13名の不足をどう評価するかという問題として考える。

多いにこしたことはないであろうが、現在の25名でなんとかやれると考える。その根拠は次の3点である。

- ① 昨年は約20名のかけもち教官で4コース、72名の訓練を実施している。

② 現在も 25 名の現有勢力で D I の 2 コース 40 名の訓練のほか、本来ならジャカルタで行われるべき次の訓練コースも実施している。

- TV Transmission Course …………… 24 名×2 組×3 か月
- Radio Transmission Course …………… 25 名×1 組×8 週間
- Radio Community Development Course …… 25 名×1 組×8 週間

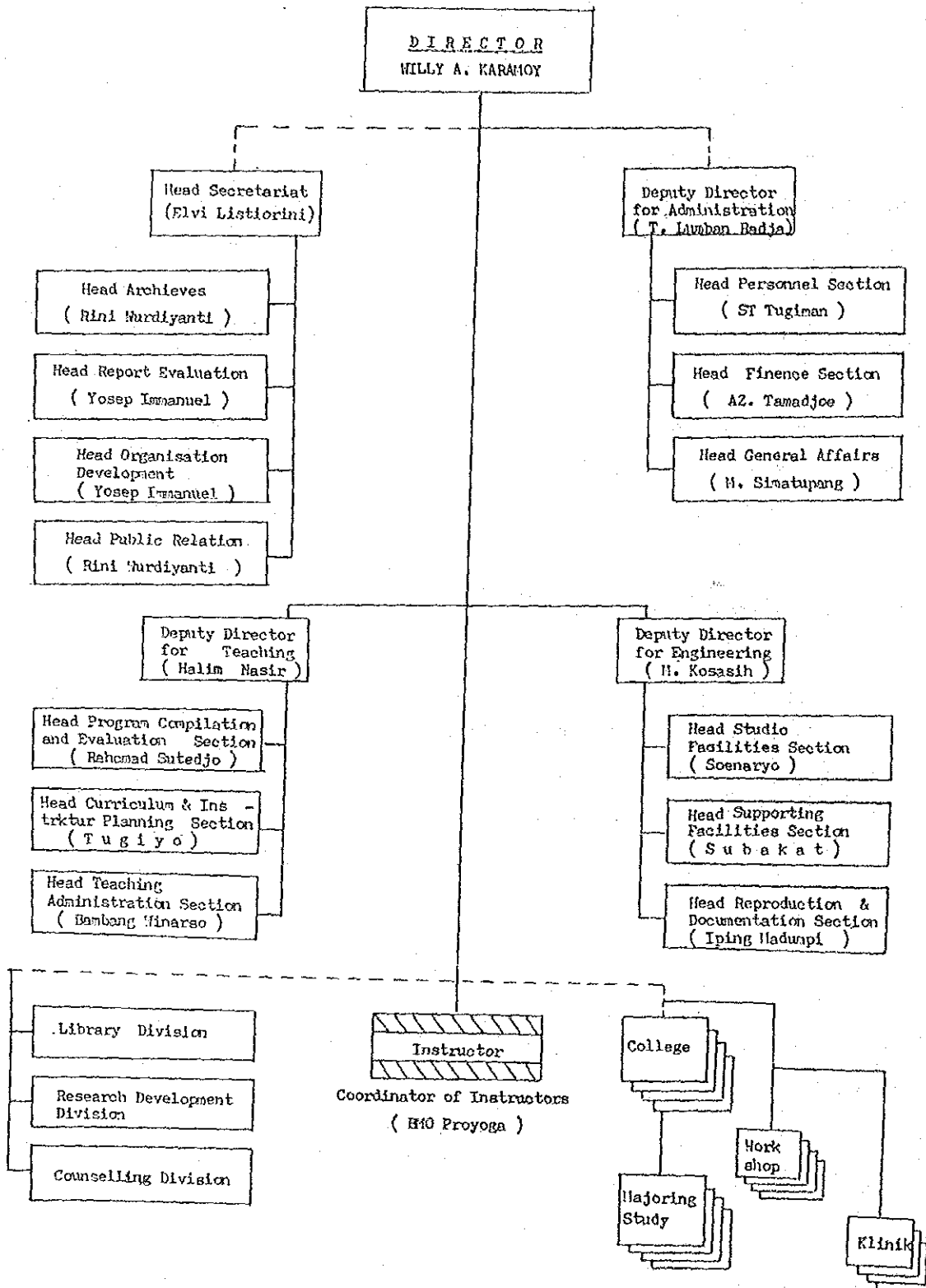
③ 25 名という数は、日本の公立高校の教員配員基準（学級数×2+1）を 2 倍以上上回る数である。

③との関連でいえば、勿論、放送関係の訓練に必要な専門の範囲は、高校教育のそれとは比較にならない広がりや深さを求められる。極端なことをいえば D I のモジュール数だけ先生が必要という理屈も成り立つ。しかし、スタジオ制作技術を例にとれば、一人の先生が照明技術、カメラ技術、音声技術、ミクシング技術等をこなすことが効果的研修の実施という観点から望ましいと考えられている。何故なら、それらの職種は互いに密接な関係をもち、現実の制作現場ではそれらの職種の人たちが 1 つのチームを作って作業するのが一般的だからである。自分の職種と他人の職種の連系を常に意識し、必要があればいつでも応援態勢に入ることが求められる。そうした連係プレーを教えるには教官自身がそれらの職種を熟知している必要がある。かくして一人の教官が幾つものモジュールを育てることができれば、教官の数はかなり少ない数で対応していくことが可能である。ただし、こうした多職能型の教官はインドネシアには少ない。日本人専門家の指導に期待されることである。

別紙(1) …… MMTC 組織図

別紙(2) …… MMTC 職員名簿

ORGANISATION CHARTS OF
MULTI MEDIA TRAINING CENTRE
YOGYAKARTA



MMTC 職員名簿MULTI MEDIA TRAINING CENTER

1. Drs. Willy A. Karamoy
(Head of MMTC) Director of MMTC
 2. Rini Wurdijanti. SH
(Head Archieves), (Head Public Relation)
 3. Dra. Elvi Listiorini
(Head Secretariat)
 4. Drs. Joseph Emmanuel
(Head Report Evaluation)
(Head Organization Development)
- } Secretariat (3 名)

Instructors (8 名)

1. Drs. BMO Prayoga (Coordinator)
2. Drs. Istiyo Hartono (Maintenance & Technics)
3. Suharno (" ")
4. Joko Yudianto (Transmission Section)
5. Djudjur Setiawan (V.T.R. Maintenance Technics)
6. Mooryantoro (" ")
7. Romain Rusdi (T.V. Production)

Adm. Division (24 名)

- Togar Lumban Radja, BA (Head Division)
1. Personnel Sub Division
 - a. St. Tugiman (Head Sub Division)
 - b. R. Soegito
 - c. Eko Sudiyanto
 2. Finance Sub Division
 - a. Drs. AZ Tamadjoe (Head Sub Division)
 - b. Muhammad Rusdi Bsc
 - c. Kadarusman HR
 - d. Nurhariyadi
 - e. Sunarti Sri Basuki
 - f. Ida Martani

3. General Sub Division

- a. Maurice Simatupang, SH (Head Sub Division)
- b. Mulatono
- c. Mudakir
- d. Sudarman
- e. Subadi
- f. Sutarman
- g. Sogiman
- h. J. Supardi
- i. Abd Rauf
- j. Sutarto
- k. Suparno
- l. Widodo
- m. Suharno
- n. Subiyanto

Teaching Division (8 名)

Halim Nasir (Head Division)

- 1. Program and Evaluation Section
 - a. Rahmad Sutedja, SH (Head Section)
 - b. Sukarja
- 2. Curriculum and Instructor/Lecturer Section
 - a. Drs. Tugiyo (Head Section)
 - b. Usdiono
- 3. Teaching Administration Section
 - a. Bambang Winarso, BA (Head Section)
 - b. Sumarsih
 - c. Niken Widyastuti

Equipment Managing Division (12 名)

Drs. M. Kosasih (Head Division)

1. Studio Equipment Engineering Section

a. Sunaryo, BA (Head Section)

b. Karno

c. Dwisuryanto

2. Supporting Device Section

a. Subakat (Head Section)

b. A. Ismanto

c. Agus Yusuf

3. Reproduction and Documentation Section

a. Iping Madumpi (Head Section)

b. Bagyo Kristanto

c. Trisupriyati

d. Tugino

e. Fatchuri

4-2. 予 算

(1) 1985年度、1986年度のMMTC予算対比

	85年度(85/86年)	86年度(86/87年)
経常予算(大蔵省)	—	4億5,460万ルピア
開発予算(開発庁)	—	1億1,066万ルピア
合 計	9億5,050万ルピア	5億6,526万ルピア

インドネシアの国家予算は大蔵省予算と国家開発庁予算に分かれており、MMTCの場合、職員の給与、建物の維持管理費は大蔵省からの routine budget で、また研修直接費、教官の研修手当、研修参加者の旅費・研修手当等は、国家開発庁からの project budget によって夫々支弁される。両方を加えた86年度の合計額は、85年度に比べて40%の落ち込みを示している。このため、DIの研修生の数は85年度の72名から40名へと減っている。ただし、86年度の開発予算にはこの他に7,020万ルピアが上のせされている。これは、4-1.12)②で述べた、本来ジャカルタのTVRI-T/CおよびRRI-T/Cで実施されるべき短期職能研修実施のための経費である。これらを加えた額で見ると、落ち込み幅は約33%にとどまる。問題は、これだけの予算で何人の訓練ができるかということである。最も厳しい見方を採れば57名、最も甘い見方を採れば113名という数字を挙げる事ができる。前者は短期コース73名を1年コースに換算した数を今年度のDIコース40名に加えたものであり、後者は、この国の地理的特殊性から費用の大部分は航空運賃、他の費目は無視し得るものと仮定して、短期の73名をそのままDIの40名に加えたものである。

(2) 87年度(87/88年)予算の見通し

情報省の要求予算は次のとおりとなっている。

経常予算(大蔵省)	28億7,080万ルピア
開発予算(開発庁)	14億6,004.8万ルピア
合 計	43億3,084.8万ルピア

これは来年度こそ、DIの5コース全てを定員一杯の24名ずつで走らせることと、年度途中から始まったためディプロマIの求める単位数を取得できず、ディプロマを受けられなかった85年度の第1回生64名に第2学期(Semester II)を受けさせることを盛り込んだ数字となっている。大雑把にいわれ、今年度予算の7.7倍という規模を示している。

去る9月13日に行われたルピアの45%大幅切り下げ、それに伴う、その後のインフレの昂進といった事態も来年度予算確保にとって不利な材料となつてこよう。もし、来年度も再来年度もDI実施規模が今年度と同規模に推移するとした場合、常識的な要員需要か

ら見て番組編成コースが開設されない事態もあり得る。万一、開設されなければ、D1の5コースのうち1コースは1度も実施されることなく、R/D協力期間の終了を迎えることとなる。その場合の対応だけは日本側としても考えておかなければならない。

4-3. 施設

(1) イ側負担の施設完成状況

イ側負担で建設を計画されている施設のうち、既に完成して使用されているものは、つぎのとおりである。

ア. 講堂

イ. 食堂

ウ. 図書館

エ. 上級教官宿舎（2軒づつの平家建て）

オ. 一般教官宿舎（4階建てアパート）

カ. 学生寮（4階建てアパート2棟…トゥイン・ベッド・ルーム131室）

来年度以後、建設が予定されているもの。

ア. スポーツ・ホール

イ. モスク

当初予定されていたが、現時点で建設を見合わせる事になったと思われるもの。

ア. 残りの学生寮2棟（5か年計画中の最大学生受け入れ数は、260名なので、追加建設の必要性がなくなっている。）

イ. 映画スタジオ

(2) 学生寮の運営状況

警備以外の運営については、市内のホテル業者“Agung Mas”に請け負わせている。なお、この業者は、MMTC食堂への供食も請け負っている。

警備については、ガードマンを雇ってMMTCが直接実施している。

現状で欠けているのは、学生の寮運営への参加である。寮運営への参加を通じて学生達は主体性、リーダーシップ、協調性といった好ましい態度を発達させるばかりでなく、能率的な事務処理といった能力も向上させるのである。

この点については、総務部長も庶務課長も全く同じ認識であった。ただ、現状ではそうしたシステムを導入するためのノウハウがない。将来の課題としてステップ・バイ・ステップで実現してゆきたいとのことであった。

5. 今後の発展計画と問題点

(1) DⅡ、DⅢの実施計画

イ側では1988年乃至1989年からディプロマⅡ（DⅡ）を、1990年からはディプロマⅢ（DⅢ）を夫々実施する計画である。そのため、カリキュラム、教材の開発が急がれている。さらに、そうした具体的な作業を行うための指針あるいは規範となる基本計画の策定が、今將に焦眉の急である。日本側もその事情を十分理解したからこそ、今回のミニッツにおいて、日本人専門家が、この計画作りに積極的に協力していく道を拓いたのであった。

なお、現在イ側が描いているDⅠ～DⅢの実施モデル及びDⅡ、DⅢの中身となるコースは次のとおり。

① DⅠ～DⅢの実施モデルパターン

年 度	DⅠ（人）	DⅡ（人）	DⅢ（人）	年度合計
第1年度	120			120人
第2年度	120			120人
第3年度	120	140		260人
第4年度	120		60	180人
第5年度	120	140		260人
第6年度	120		60	180人

※ 2年分のDⅠ終了者240人のうち140人がDⅡへ進み、DⅡ140人のうち60人がDⅢへ進級する。

6. ミニッツ

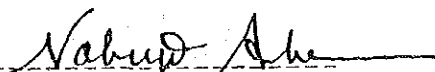
THE MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND
THE MINISTRY OF INFORMATION OF
THE REPUBLIC OF INDONESIA
ON
THE RADIO AND TELEVISION TRAINING CENTRE PROJECT

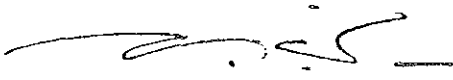
The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "The Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Nobuji Abe (Deputy Director, Social Development Cooperation Department, JICA) visited the Republic of Indonesia from September 11, 1986 to September 20, 1986 for the purpose of discussions with authorities concerned of the Ministry of Information on the Radio and Television Training Centre Project (hereinafter referred to as "the Project") in the framework of the Multi Media Training Centre (MMTC) in Yogyakarta.

During its stay in the Republic of Indonesia, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Indonesian authorities concerned, in connection with the new development occurred in the process of implementation of the Project owing to the introduction of Diploma Program in accordance with Presidential Decree (No. 59/1985) issued on July 30, 1985.

As a result of the discussions, both Japanese and Indonesian sides made the Minutes of Meetings which is attached hereto.

Jakarta, September 19, 1986.


Nobuji Abe
Leader
Consultation Team
Japan International
Cooperation Agency,
J A P A N



Drs. H. Abdul Kadir
Secretary General
Ministry of Information
THE REPUBLIC OF INDONESIA

I. Adoption of Diploma Program System.

1. Concerning the Project, Indonesian side explained as follows, and requested further technical cooperation to the Team.

(1). The contents of the Master Plan for Diploma I Program as given in ANNEX I are substantially equivalent to the basic training courses as stated in the article 4-(2) of the Minutes signed on December 19, 1985 and is being conducted duly at present.

(2). The overall plan for Diploma I, II and III is as given in ANNEX II and Diploma II and III training courses are planned to commence from 1989 and from 1990 respectively at the earliest as stated in ANNEX II in parallel with Diploma I training courses. Therefore, the curricula and the textbooks for Diploma II and III training courses will have to be drawn up in detail in the future.

(3). The organization of the Project was fixed as given in ANNEX III.

2. The Team answered to the explanation made by the Indonesian side as follows; and the Indonesian side consented to them.

(1). The Master Plan for Diploma I as given in ANNEX I is acknowledged to be applicable and the Japanese technical cooperation is to be continued in accordance with The Master Plan for Diploma I as mentioned above.

(2). The further technical cooperation for Diploma II and Diploma III will be studied by the Japanese side after receiving the formal request from the Indonesian side. For the time being, the Japanese technical cooperation for Diploma II and Diploma III is to be limited to advise Indonesian counterparts for the preparation of the training courses specially on the provision of the curricula and the textbooks.

(3). With regard to (1) and (2) mentioned above, the Japanese technical cooperation will be continued within the scope of the Record of Discussions signed on October 21, 1983.

(4). The organization of the Project as given in ANNEX III is to be acknowledged.

II. Progress of the Implementation of the Project.

1. Progress of Implementation of the Training Courses Indonesian side explained as follows:

- (1). 72 trainees for the first batch participated in the training and 64 of them obtained the certificates. However, since the 1st batch trainees did not complete Diploma I Program due to the shortage of the required training period. They shall continue their study of the Semester II in 1987/88.
- (2). 40 trainees for the 2nd batch are being trained duly on the basis of the curricula revised so as to conform the regulations of the Department of Education and Culture of the Republic of Indonesia.
- (3). The number of trainees for the 3rd batch is planned to be 120 persons.

2. Activities of the Japanese Experts.

Indonesian side and the Team expressed their satisfaction with the advice and the suggestion of the Japanese experts on the revision of the curricula and the implementation of the training courses.

3. Maintenance and Utilization of Equipment and Machinery

The Team was satisfied to study that all the equipment and machinery provided by JICA are well maintained and fully utilized for the training purpose.

The Team highly appreciated Indonesian endeavours which had been made since the commencement of the Project.

ANNEX I : MASTER PLAN FOR THE RADIO AND TELEVISION TRAINING
CENTRE PROJECT (DIPLOMA I).

1. Objectives of the Project.

The objectives of the Project are to establish the Radio and Television Training Centre (hereinafter referred to as "the Centre") in the framework of the establishment of the Multi Media Training Centre in Yogyakarta for the purpose of providing broad basic knowledge and skills for the Indonesian staff in the field of broadcasting services and thus fostering the desirable performance of duties of the personnel of the Ministry of Information in the Republic of Indonesia.

2. Objectives of the Japanese Technical Cooperation.

The objectives of the Japanese Technical Cooperation Program are to assist and advise Indonesian counterparts in conducting training courses in accordance with the chart attached to ANNEX I.

(1). The training system is to be divided into two semesters.

The training period is one year and consists of five training courses (Programme Compilation Planners, Program Lines Producers, News and Current Affairs Reporters, Studio and Master Control Technique Operators and Transmission Operators).

(2). The training targets of each course referred to in (1) above are as follows:

(i). Programme Compilation Planners.

It is the group of jobs which require the knowledge on the method and technique of arrangement and assembling the whole packages of productions in the pattern of continuity and consistency, on the basis of time, geographical condition, the value of orientation of social strata and to analyze the impact of broadcast and the legal aspects involved.

(ii). Program Lines Producers.

It is the group of jobs which require the knowledge on the method, technique and artistic work of production, according to its individual professions and qualification and understanding the whole process in the production lines.

(iii). News and Current Affairs Reporters.
It is the group of jobs which require the knowledge on news collecting, writing, editing, re-writing, correction and reporting for news bulletin, news magazines, and other informational types of programs.

(iv). Studio and Master Control Technique Operators.
It is the group of jobs which require the knowledge based on standard operation procedure of studio technique and master control equipment, to understand simple structure of its technique, and may be able to repair the minor malfunction of equipment.

(v). Transmission Operators.
It is the group of jobs which require the knowledge on transmission based on standard operation procedures, to understand simple structure of transmitter and antenna and may be able to repair minor malfunction of equipment.

3. Capacity of the training courses in the Centre to be conducted by the Japanese Technical Cooperation will be not more than 240 trainees.

(Chart attached to Annex I)

Examination	
Programme Compilation Planners	
Program Lines Producers	
News and Current Affairs Reporters	
Studio and Master Control Technique Operators	
Transmission Operators	
Semester I (6 months)	Semester II (6 months)
Diploma I training courses	

ANNEX II : THE OVERALL PLAN FOR THE RADIO AND TELEVISION TRAINING CENTRE PROJECT.

1. The overall training plan for study program on Diploma I, II and III, will be based on jobs as well as subjects "tailored to the employable skill" in the fields of broadcasting profession in Indonesia, and are planned to commence from 1989 for Diploma II and from 1990 for Diploma III.

2. The Japanese Technical Cooperation Program for the time being is to assist and advise Indonesian counterparts for the preparation for the training courses specially on the provision of the curricula and textbooks. The training courses will be conducted as follows ;

2.1. The training system is to be divided into three programs, i.e. Diploma I, Diploma II and Diploma III.

Diploma I, which will be conducted in two semesters (one year), consists of knowledge in majoring areas as shown in paragraph 2.2.1., including practicum in studio and outside, qualified as "Assistant Professional Skill".

Diploma II, which will be conducted in four semesters (two years), consists of knowledge in majoring areas as shown in paragraph 2.2.2., including practicum in studio and outside, qualified as "Associated Professional Skill".

Diploma III, which will be conducted in six semesters (three years), consists of knowledge in majoring areas as shown in paragraph 2.2.3., including practicum in studio and outside, qualified as "Senior Professional Skill".

Diploma I, II and III are integrated programs. The trainees who take the Diploma I and terminate in one year, may go back to his works or may continue his study to Diploma II by transferring certain credits; and so as from Diploma II to Diploma III.

The credit of Diploma I which might be transferable could be regarded as pre-requisite for Diploma II; and the credit from Diploma II which might be transferable could be regarded as pre-requisite for Diploma III.

2.2. The training targets and the majoring areas of study of each program referred to in (2.1) are as follows:

2.2.1. Study program for Diploma I (D.I) - One Year

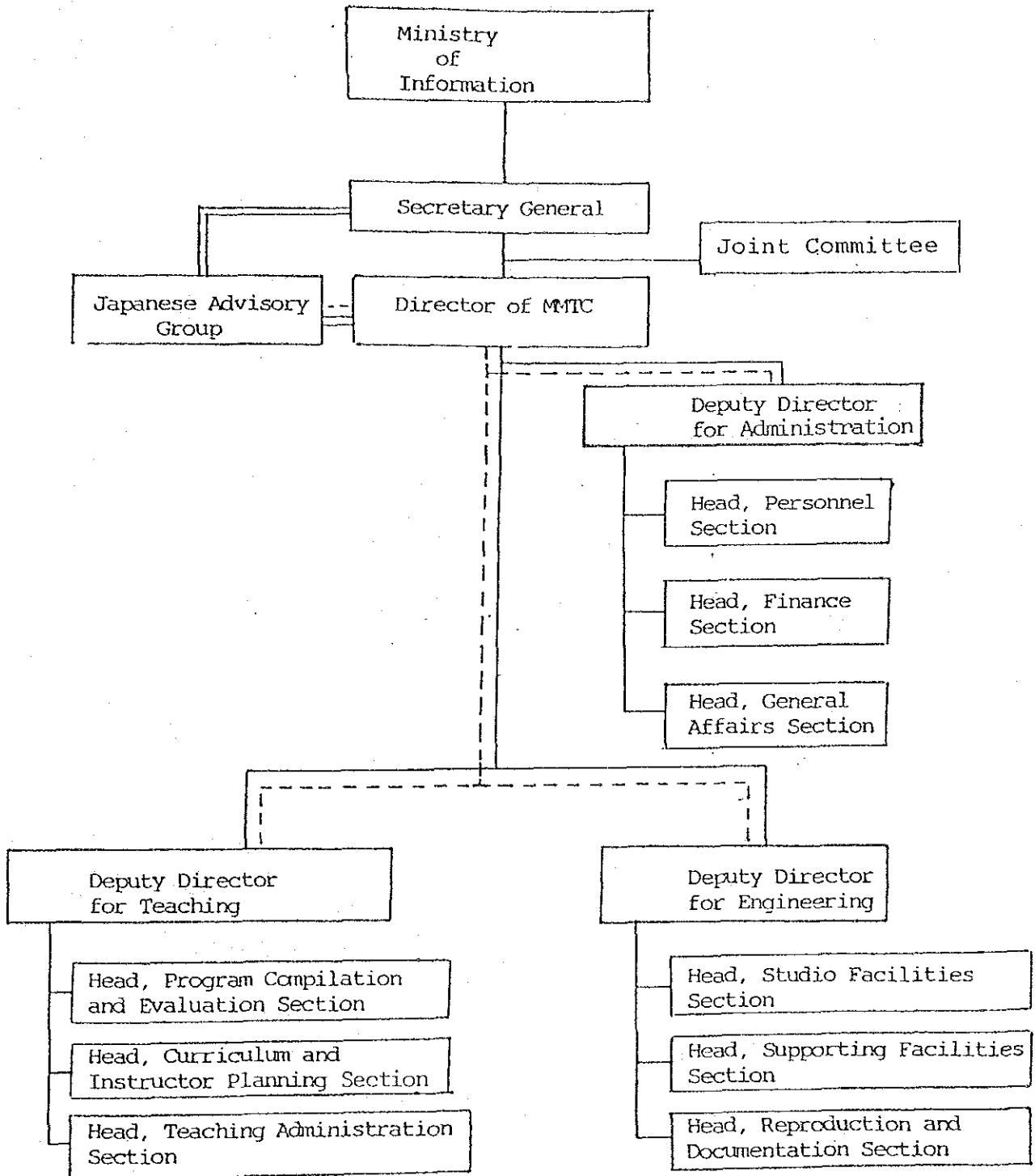
Majoring Areas	Credits in Semesters
2.2.1.1. Programme Compilation Planning	(40 - 50)
2.2.1.2. Program Lines Production	(40 - 50)
2.2.1.3. News and Current Affairs Reporting	(40 - 50)
2.2.1.4. Studio and Master Control Technique Operation	(40 - 50)
2.2.1.5. Transmission Operation	(40 - 50)

2.2.2. Study Program for Diploma II (D.II) - two years

2.2.2.1. Programme Broadcasting Planning	(80 - 90)
2.2.2.2. Program Package Production	(80 - 90)
2.2.2.3. Broadcast Journalism	(80 - 90)
2.2.2.4. Script/Story Writings	(80 - 90)
2.2.2.5. Broadcasting Performance	(80 - 90)
2.2.2.6. Studio Production Technique	(80 - 90)
2.2.2.7. Transmission Technique	(80 - 90)
2.2.2.8. Technical Repair	(80 - 90)

2.2.3. Study Program for Diploma III (D.III) -three years

2.2.3.1. Broadcasting Management	(110 - 120)
2.2.3.2. Program News and Information Productions	(110 - 120)
2.2.3.3. Program Education and Religion Productions	(110 - 120)
2.2.3.4. Program Culture and Entertainment Productions	(110 - 120)
2.2.3.5. Technical and Artistic Production Designs	(110 - 120)
2.2.3.6. Scenario and Storyboard Writings	(110 - 120)
2.2.3.7. Public Speech and Drama Casting	(110 - 120)
2.2.3.8. Apparatus Engineering	(110 - 120)
2.2.3.9. Open Studio and Mobile Production Engineering	(110 - 120)
2.2.3.10. Satellite and Terrestrial Transmission Engineering	(110 - 120)
2.2.3.11. Maintenance	(110 - 120)



Legend :

- commanding line
- ==== counterpart line
- - - - - daily counterpart line

- Mr. Nobuji Abe, Leader Japanese Consultation Team and his members...
- Mr. Katsumi Shiraishi, Leader of Japanese Expert Team to MMTC-BTC and his staff,
- Representative of JICA office in Jakarta,
- And my dear colleagues.

First of all may I convey my most hearted welcome to you, and do hope that you have a good experience and pleasant stay in Yogyakarta and Jakarta.

The Multi Media Training Centre, now, has become one of the prestigious institute of education and training in Indonesia, as well as, in International, in the field of communication and information. among the 308 students of Diploma I who were nominated by the whole radio and television stations under the Department of Information, only 40 of them were accepted. Every month the average of tourist visits the Multi Media Training Centre reach 160 to 170 peoples. There are several countries/^{in Asia and Pacific} have asked to the Multi Media Training Centre for conducting courses for the trainees of the countries respectively.

These indicate that the Multi Media Training Centre is becoming the most credibility of institute to educate and to train the professional skills in communication and information.

I ask, therefore, for your indulgence on behalf of the Department of Information to JICA through the Japanese Government to continue its grant-aid for the expansion of the Multi Media Training Centre for the Diploma II and Diploma III programs.

On this occasion it is a proof/^{that} the cooperation between JICA and the Department of Information is developing very significantly and fruitfully. It is my confidence that we are tracking in the right path to create a good sphere of understanding for our mutual benefit.

May I declare that the Department of Information is now welcome
for signing the Minutes of Meetings. Thank you.

Jakarta, September 19, 1986.

Secretary General
Ministry of Information,



Drs. ABDUL KADIR.

7. 附 属 资 料

EXPANSION OF MULTI MEDIA
TRAINING CENTRE

MTA - 17

JULY 1986

SECRETARIAT GENERAL
DEPARTMENT OF INFORMATION
REPUBLIC OF INDONESIA

THE EXPANSION OF MULTI MEDIA TRAINING CENTRE
FROM PROGRAM DIPLOMA I TO PROGRAM DIPLOMA II AND III
YOGYAKARTA, INDONESIA.

I. BACKGROUND INFORMATION FOR EXPANSION OF THE PROJECTS

According with the Presidential Decree No. 59/1985, followed by the Minister of Information Decision No. 155B/1985, stated that the Multi Media Training Centre in Yogyakarta should carry out in Program Diploma systems. This is a development of the first concept which based on vocational training into the professional training. Multi Media Training Centre, therefore, is also carrying out the vocational training in non-diploma bases to produce trained skills.

Since there is no single university, academy and high learning institute offer such kind of education in Radio and Television profession, then the existency of MMTTC, including the expansion of program is necessary. The needs of skills in radio and TV are increasing significantly due to the activities in disseminating informations to motivate the idea of development was so enormously intens. This is also happened due to the utilization of Domestic Satellite Communication "PALAPA" boosted the needs of quantity and quality of radio and TV professions.

If we look at national level, the productive age entered the labor market, in 1984 is 1.202.500 peoples. But only 217.500 of them is absorbed by the market. This means only 18,09% is enjoyed with their job. Every year the productive age including those graduates from high school increasing by 1.900.000 peoples.

The amount of personnel in the Department of Information of the Republic of Indonesia, in 1984/1985, reach 43.777 employees. At the end of the Five Year Plan is projected 66.203 employees. This means the growth rate of personnel is 6,08% per annum. But the employees who had enjoyed the vocational training is only 18,02% range from radio, TV, film, press, publications, face to face communications to other public informations.

For radio and TV personnel which totally 4833 employees in 1984/1985, only 7,50% is absorbed by vocational training per annum. Meanwhile the increasing rate of the personnels reach 18,37% per year.

Based on these figures the needs for highly standard profession should be taken into account.

Program Diploma I which consists of 5 program studies -- assuming that every Program Study may be attended by 20 - 25 students, say, the average is 22 students, then the whole programs of Diploma I (D.I.) may absorb 110 students per annum.

Program Diploma II, which consists of 8 Program Studies, may absorb $22 \times 8 = 176$ students per two years. Program Diploma III (D. III), which consists of 11 Program Studies, may absorb $22 \times 11 = 242$ students per three years. Assuming the "survival probability" is nil, then MMTC may absorb students $3 \times 110 + 2 \times 176 + 242 = 924$ in three years. This means every year MMTC can absorb $(924:3) \times (1:4833) \times 100\% = 6,37\%$ for professional skills. If this figure add to the vocational training, then trained skills plus professional skills will be $7,50\% + 6,37\% = 13,87\%$. This means the employees who may take the non-trained and professional skills is $18,37\% - 13,87\% = 4,50\%$. The percentage of 4,50% of the employees may take the course for structural job or to be projected as organizational/administrative skills.

If we recapitulate the composition of growth rate of personnel qualifications then the figures may indicates as follows:

Organizational/Administrative Skills	:	4,50%
Professional Skills	:	6,37%
Trained Skills	:	7,50%

This means to manage the sophisticated technology in the future the composition of skills will be $(6,37\% + 7,50\%): 4,50 = 3,082$ or 3 to 4 professional and trained skills against 1 (one) Organizational/Administrative Skills, to cope the growth rate per annum.

If we look at the composition between the professional skills and the trained skills (assuming as assistant or helper to the professionals), then every 1 (one) additional professional skill needs 1 - 2 additional trained skill.

To conclude this descriptions, MMTC theoretically, should be 3 (three) times bigger to cope the increasing demand of professional and trained skills.

There are many considerations should be taken into account, such as the real figure of "survival probability, employee wastage, employee turn over" etc. If these figures will be involved the needs of professionals, as well as, trained skills might be higher.

II. SCHEDULING PROGRAM OF EDUCATION PROGRAM DIPLOMA II AND III

MMTC had started the Program Diploma I, in 1985/1986 academic year. Since the first batch had not been completed yet for Program Diploma I, the students shall continue their study to semester two in 1987/1988 academic year.

After three batches MMTC plans to start the D.II in 1988/1989. This is based on the assumptions that the facilities for D.II will be started to build in 1987/1988 and will be finished up by 1988/1989.

The first batch for D.III may start in 1989/1990, right after the D.II has terminated. This is based on the assumption that the facilities for D.III has started in 1988/1989 and will be completed in 1989/1990.

Meanwhile the fifth batch of D.I may be started not only for the existing employee but for the new recruitments. This means in academic year of 1990/1991, may be started the D.II program, followed by the fourth batch of D.I which has been taken in plant training for one year.

The following matrix shows the scheduling of the whole program until 1995/1996 as follows:

BATCH YEAR	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
1985/1986	D I									
1986/1987		D I								
1987/1988			D I							
1988/1989	D II			D I						
1989/1990	D III				D I *)					
1990/1991		D II				D I				
1991/1992		D III					D I *)			
1992/1993			D II					D I		
1993/1994			D III						D I *)	
1994/1995				D II						D I
1995/1996				D III						

*) May be enrolled by new recruitments taking consecutive years systems.

III. INSTRUCTORS DEVELOPMENT PLANNING

Program Diploma I consists of 5 Program Studies, where each program is conducted in 40-44 Credit Semester Systems (CSS). Assume that the ratio between CSS instructor are 1 (one) instructor to 3 (three) CSS, then the average CSS is 42, divided by 3 CSS is equal to 14 instructors. Since there are 5 Program Studies, then the total instructors are $5 \times 14 = 70$ instructors.

Since the Program Studies are conducted by multimedia systems, then there are some courses offer simultaneously by one instructor in integrated systems. The curriculum consist of:

General courses

Basic Skill courses

Professional courses

Practicum (including seminar and paper's writing).

Assume that General and Basic Skill courses are 45,45% and Professional courses and Practicum are 54,55%, and that General courses and Basic Skill courses may be conducted in integrated systems, then the percentage will be 18,18% for the first and 27,27% for the last courses. Professional courses and Practicum will be conducted in separated system. The percentages are 25,45% and 29,10%.

The courses, therefore, will be consist of:

10 instructors for General courses

20 instructors for Basic Skill courses

30 instructors for Professional courses

10 instructors for Practicum

Since there are some instructors may offer courses in integrated system, then there are 20 instructors are conducting courses in integrated method.

The total instructors based on CSS ratio are 70 instructors. But the real instructors will be $70 - 20$.

Diploma II consists of 8 Program Studies, where each program is conducted in 80 - 90 CSS. The average is 85 CSS divided by 3 CSS (assume that the ratio is 1 (one) instructor to 3 CSS), then the instructors are totally 23. For the whole total Program Studies need $8 \times 23 = 184$ instructors.

The compositions of instructors are as follows:

33 instructors for General courses
50 instructors for Basic Skill courses
46 instructors for Professional courses
53 instructors for Practicum.

Total instructors conduct integrated courses indicate 53 personnels. This means, the real instructors of Diploma II will be $184 - 53 = 131$ personnels.

Diploma III consists of 11 Program Studies, where each program is conducted in 110 - 120 CSS. The average CSS is 115 divided by 3, then the instructors are 38 personnels. For total Program Studies, therefore, need $11 \times 38 = 418$ instructors.

The compositions of instructors are as follows:

75 instructors for General courses
113 instructors for Basic Skill courses
106 instructors for Professional courses
124 instructors for Practicum

Total instructors conduct integrated courses will be 119 personnels. This means the total real instructors for Diploma III will be: $418 - 119 = 299$ personnels.

Program D.I, D.II and D.III can be conducted in continuity from D.I, to D.II and to D.III. There are several courses in D.I will be pre-requisite for D.II and several courses in D.II will be pre-requisite for D.III.

The whole Program Studies, from D.I, D.II and D.III, therefore, need 144 instructors, assuming that some of these instructors can teach one course for several classes, in D.I, D.II and D.III. This is the minimum amount of instructors for Radio and Television course study.

IV. THE IMPLEMENTATION METHOD OF EDUCATION AND TRAINING

The implementations of D.I, D.II and D.III will be carried out in different forms D.I. will be conducted in Classroom type, D.II will be conducted, beside Classroom type, also in Workshop type. And D.III will be conducted beside D.I., and D.II types will be conducted in Clinical type. If the profession is very highly specialized then it could be conducted in Sub-clinical type.

In D.I., the whole jobs which homogenous are classified in one group. By and Large, the groups of job consist of Programme. Production, Studio and Master Control Technic and Transmission. Each group might be divided into sub-groups. By this method each profession could understand each others, may communicate among themselves and, finally, can work together in a team.

In Diploma II the job will be more in the workshop type. They can conduct in inter workshop method although the course is oriented to the individual skill. Since they have understood each others' jobs which they have experience in D.I. (Classroom type), so they are able to work in a team.

In Diploma III, the job will be more specialized in the clinical type. The course may conduct in inter and intra clinical types, and, by doing so, they can work in a team.

To give some examples, the Program Study of Program Lines Producers in D.I. program consists of Producer, Program Director, Editor, Music Illustrator, Art Director, etc. All these jobs are in one group. In D.II program the course will be oriented to individual

skill. A Program Director, for example, will be more specialized in drama, paly, education, entertainment, culture, information, etc. In D.III program, the Program Director of drama may study the knowledge more specialized. They will study drama on children story, drama on adult story, drama on traditional story etc. The journalist, for example, after he was specialized in Political journalist as he got from D.II, he can more specialized in Political journalist for South East Asia, Economic journalist in agriculture, forestry, science, sports etc.

The following diagram describes the systems as follows:

D.III													Clinic, Workshop & Classroom Type	
D.II													Workshop & Classroom Type	
D.I	Programme			Production			Technics							Classroom Type

V. DESCRIPTIONS OF PROGRAM DIPLOMA I, II AND III

according with the characters of JOB CLASSIFICATION.

The Course Study of Radio and Television.

Program Study (Majoring) for:

DIPLOMA I.

1. Programme Compilation Planners,

is the group of jobs which required knowledge on the method and technics of arrangements and assembling the whole packages of productions in the pattern of continuity and consistency, on the bases of time, geographical condition, the value of orientation of social strata and to analyze the impact of broadcast and the legal aspects involved.

2. Program Lines Producers,

is the group of jobs which required knowledge on the method, technic and artistic of production, according to its individual professions and qualifications and understanding the whole process in the production lines.

3. News and Current Affairs Reporters,

is the group of jobs which required knowledge on news collecting, writing, editing, re-writing, correction and reporting for news bulletin, news magazines, and other informational types of programs.

4. Studio and Master Control Technic Operators,

is the group of jobs which required knowledge based on standard operation procedure of studio technic and master control equipments, understand simple structure of its technics, and may be able to repair the minor malfunction of equipments.

5. Transmission Operators,

is the group of jobs which required knowledge on transmitting based on standard operation procedures, understand simple structure of transmitter and antenna and may be able to repair the minor malfunctions of equipments.

Program Study (Majoring) for:

DIPLOMA II.

1. Programme Broadcast Planners,

is the group of jobs which required knowledge on planning systems, simple data and information analysis, the magnitude of programme classifications, format of programs and productions and others relevant knowledge to integrate all program sources in to a pattern of policy (Pre-requisite : Programme Compilation Planners and certain subjects in Program Lines Producers).

2. Program Package Producers,

is the group of jobs which required knowledge on the complexity of method, technic and artistic of production of individual profession as well as integrated professions involved in the production lines process. (Pre-requisite : Program Lines Produceres and certain subjects in Programme Compilation Planners).

3. Broadcast Journalists,

is the group of jobs which required knowledge on the complexity of journalistic substance in the method of writing, reporting, editing, commenting, analysing and in all kinds of specialized fields such as politics, economics, social, science, sports, cultures and arts and military (Pre-requisite : News and Current Affairs Reporters and certain subjects in Programme Compilation Planners, Program Lines Producers).

4. Script/Story Writers,

is the group of jobs which required knowledge on methodology research, idea's development, writing technics, and procedures writing for production. (Pre-requisite : Program Lines Producers, and certain subjects, in Programme Broadcast Planners and News and Current Affairs Reporters).

5. Broadcasting Performers,

is the group which required knowledge on voice reporting, narrations, acting, effective speaking, body language, mimic and other style of arts of appearance for program presentation (Pre-requisite : Program Lines Producers, and certain subjects in News and Current Affairs Reporters and Programme Compilation Planners).

6. Studio Production Technicians,

is the group of jobs which required knowledge on the complexity of technology on studio production to meet the program substance and understand the systems structure of technology. (Pre-requisite : Studio and Master Control Technic Operators, and certain subjects in Program Lines Producers, News and Current Affairs Reporters and Transmission Operators).

7. Transmission Technicians,

is the group of jobs which required knowledge on the complexity of transmitter and antenna technics, the wave propagation characters and audio video transmission quality. (Pre-requisite: Transmission Operators and certain subjects in Studio and Master Control Technic Operators).

8. Technical Repairmen,

is the group of jobs which required knowledge on the structure of calibration and measurement and ability to functionalize, improve and repair the failed or malfunction of equipments. (Pre-requisite: Studio and Technic Operators and certain subjects in Transmission Operators).

Program Study (Majoring) for:

DIPLOMA III.

1. Broadcast Managers,

is the group of jobs which required knowledge on the managerial and technical aspects of broadcast, to plan, organize, execute, monitor and control all broadcast program resources, to analyze feedback, understanding the phenomena for strategic planning. (Pre-requisite : Programme Compilation Planners and certain subjects in Program Lines Producers, Program Package Producers, News and Current Affairs Reporters, Studio and Master Control Technic Operators and Transmission Operators).

2. Program News and Information Producers,

is the group of jobs which required knowledge on the sophisticated method and technic of news and information productions according to the qualification and discipline of professions in the specialized field of journalism (Pre-requisite : News and Current Affairs Reporters, Broadcast Journalists and certain subjects in Program Lines Producers, Programme Compilation Planners, Programme Broadcast Planners, Program Package Produceres, Script/Story Writers, Broadcasting Performers and Studio and Master Control Technic Operators).

3. Program Education and Religion Producers,

is the group of jobs which required knowledge on the sophisticated method and technic of education and religion productions according to the qualification and discipline of professions in the specialized field of science, technology and philosophy on the basis of age, target audience, social strata and social perception. (Pre-Requisite: Program Lines Producers, Program Package Producers, and certain subjects in Programme Compilation Planners, Programme Broadcast Planners, Script/Story Writers, Broadcasting Performers and Studio and Master Control Technic Operators).

4. Program Cultural and Entertainment Producers,

is the group of jobs which required knowledge on the sophisticated method and technic of cultural and entertainment productions according to the qualifications and discipline of professions in specialized field of show, arts (visual, performing, music, traditional, classical etc.) and performance (stage, drama, comedy, tragedy etc.) (Pre-requisite : Program Lines Producers, Program Package Producers, and certain subjects in Programme Compilation Planners, Programme Broadcast Planners, Script/Story Writers, Broadcast Performers and Studio and Master Control Technic Operators).

5. Technical and Artistic Production Designers,

is the group of jobs which required knowledge on character of technical and artistic aspects, understanding the property needs in supporting the esthethical design for production (Pre-Requisite : Program Lines Producers, Program Package Producers, and in certain subjects of News and Current Affairs Reporters, Studio and Master Control Technic Operators, Broadcast Journalists, Script/Story Writers, Broadcasting Performers and Studio Production Technicians).

6. Scenario and Storyboard Writers,

is the group of jobs which required knowledge on the dramaturgy, radio and teleplay and theatrical writing and others relevant show on performance literatures writings, including conical character sketching supporting screen directing and shooting script for package of production (Pre-Requisite : Program Lines Produceres and Program - Package Producers and certain subjects in Programme Compilation Planners, News and Current Affairs Reporters, Script/Story Writers, Broadcasting Performers and Broadcasting Journalists).

7. Public Speech and Drama Casters

is the group of jobs which required knowledge on oratory, rethoric, talkshow, acting, dramatisation, play and other arts of presentation for the production purposes (Pre-Requisite : Programme Lines Producers, Broadcast Performers and certain subjects in News and Current Affairs

Reporters, Programme Compilation Planners, Script/Story Writers and Broadcasting Journalists).

8. Apparatus Engineers,

is the group of jobs which required knowledge on sophisticated studio and master control technology and understanding of planning, designing and constructing to search for new inventions and innovations in producing package of production (Pre-Requisite : Studio and Master Control Technic Operators, Studio Production Technicians and certain subjects in Transmission Operators, Transmission Technicians and Technical Repairmen).

9. Open Studio and Mobile Production Engineers,

is the group of jobs which required knowledge on sophisticated open studio and mobile production technology and understanding of planning, designing and constructing, to search for new invention and innovations in producing package of production. (Pre-Requisite Studio and Master Control Technic Operations, Studio Production Technicians, and certain subjects in Transmission Operators, Transmission Technicians, Technical Repairmen).

10. Satellite and Terrestrial Transmission Engineers,

is the group of jobs which required knowledge on satellite and other space and ground segment communication and broadcasting technology, the character of propagations, footprints, wheather and geographical impact mobile as well as fixed stations, and other satellite communication and broadcasting systems (Pre-Requisite : Transmission Operators, Transmission Technicians, and Master Control Technic Operators, Studio Production Technicians, and Technical Repairmen).

11. Maintenance,

is the group of jobs which required knowledge on calibration, testing, measurement, repairing and improving the sophisticated technology in electronic media communication and broadcasting and to understand the stage and prospect of obsolescence of product technology, the new technology, new inventions and innovations, to ensure the continuity

of technical, production, as well as, broadcasting operations. (Pre-Requisite: Technical Repairmen, Studio and Master Control Technicians Operators and certain subjects in Transmission Operators and Transmission Technicians).

1. PROJECT TITLE : Expansion of training facilities of Multi Media Training Centre for DIPLOMA II in Fiscal Year 1987/1988
2. LOCATION : Yogyakarta, Republic of Indonesia
3. EXECUTING AGENCY : Secretariat General,
Ministry of Information
4. OBJECTIVES : To expand the training facilities of Radio, Television and Film Training Centre in Yogyakarta to Diploma II Program.
5. PROJECT DESCRIPTION : Scope of the proposed project would include supply, delivery to site, installation, test and commissioning of:
- 5.1 Common Facilities.
 - 5.2 Program Training Facilities
 - 5.3 Technical Training Facilities
 - 5.4 Building (6500 sq-m)
 - 5.5 Furnitures
6. SCOPE OF ASSISTANCE REQUESTED :
- | | | | |
|--------------------|---------|--------|-----------|
| a. Expert services | 11 m.m. | = USE | 77,000 |
| b. Fellowships | 11 m.m. | = US\$ | 33,000 |
| c. Equipments | | = US\$ | 3,685,750 |
| | | | ----- |
| T O T A L | | = US\$ | 3,795,750 |

The Details of project as follows:

5.1 COMMON FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.1.1 Joint Lecture Room	OHPs Video Players Link Line from Studios Calculators	3.7
5.1.2 Seminar Room	Whiteboards	0.6
5.1.3 Audio Visual Room	16 mm projectors Slide projectors with screens load speakers systems slide Printers	
5.1.4 Language Laboratory	L-L Equipments	1.7
5.1.5 Print Room	Copy Machines	3.0
5.1.6 Mini TV Studio and Mini Radio Studio	Piano Band Equipments and Lighting Equipments	3.3
5.1.7 Library *	Books Audio and Video Materials Slide Materials Discotics	1.1
5.1.8 Office *	Office Computers	5.0

T O T A L		21.1

* = existing room

5.2 PROGRAM TRAINING FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.2.1 Preparation Room	Portable Audio Recorders Still Cameras Portable TV Cameras	6.7
5.2.2 Audio Editing Room	Audio Editing Machines	3.3
5.2.3 Video Editing Room	Video Editing Machines Video Animations Digital Effects	13.3
5.2.4 Physical Laboratory	Physical Test Apparatus TV Microscopes Strobo-lights	3.1
5.2.5 Chemical Laboratory & Chemical Store	Chemical Tests Apparatus Chemical Reagents	1.7
5.2.6 Dark Room	D P E Sets	2.2
5.2.7 Store/Workshop	Tools	1.7
T O T A L		32.0

5.3 TECHNICAL TRAINING FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.3.1 Electric Power Laboratory	Switchboard and Generators Measuring Instruments Working Materials	15.1
5.3.2 Electronic Laboratories I	Training Sets Measuring Instruments	32.3
5.3.3 Audio Laboratories	Training Sets Measuring Instruments	11.7
5.3.4 Video Laboratory	Training Sets Measuring Instruments	38.1
5.3.5 H F Laboratory	Training Sets Measuring Instruments	19.9
5.3.6 V H F Laboratory	Training Sets Measuring Instruments	24.5
5.3.7 Digital Laboratory	Personal Computers Training Sets Measuring Instruments	21.2
5.3.8 Workshop	Tools	1.7
5.3.9 Mechanic and Store	Tools Electronic Parts Working Materials	6.1
5.3.10 Transmitter Rooms*	TV Transmitters (Tube type, 1 KW) R-STL and TV-STL	26.1
5.3.11 Outdoor	Microwave Receiving Tower H F Test Antennas	3.1
T O T A L		199.8

5.4 BUILDING (6500 sq-m)

Cost Components	Million Yen
5.4.1 Direct Labour Costs	300.0
5.4.2 Direct Material Costs	
5.4.3 Indirect Labour Costs	
5.4.4 Indirect Material Costs	
5.4.5 General, Facilities and Administrative Costs	
5.4.6 Transportation Costs	
5.4.7 Managerial Overheads	
5.4.8 Others	
T O T A L	300.0

5.5 FURNITURE

	Million Yen
5.5.1 Working Tables, Chairs etc.	25.8
5.5.2 Practicum Tables, Chairs etc.	
5.5.3 Excecutive Tables, Chairs et	
5.5.4 Filling Cabinets	
5.5.5 Others	
T O T A L	25.8

E S T I M A T E D B U D G E T

LEGENDS		Million Yen
5.1	Common Facilities	21.1
5.2	Program Training Facilities	32.0
5.3	Technical Training Facilities	199.8
5.4	Building (6500 SQ-M)	300.0
5.5	Furnitures	25.8
T O T A L		578.7

1. PROJECT TITLE : Expansion of training facilities of Multi Media Training Centre for DIPLOMA III in Fiscal Year 1988/1989
2. LOCATION : Yogyakarta, Republic of Indonesia
3. EXECUTING AGENCY : Secretariat General,
Ministry of Information
4. OBJECTIVES : To expand the training facilities of Radio, Television and Film Training Centre in Yogyakarta to Diploma III Program.
5. PROJECT DESCRIPTION : Scope of the proposed project would include supply, delivery to site, installation, test and commissioning of additional equipments to the following:
- 5.1 Common Facilities
 - 5.2 Program Training Facilities
 - 5.3 Technical Training Facilities,
and expanding
 - 5.4 Building (1500 sq-m)
and addition to the existing
 - 5.5 Furnitures
6. SCOPE OF ASSISTANCE REQUESTED :
- | | | | | | | | |
|-----------|-----------------|---|-----|---|---------------|--------|---------------|
| a. | Expert services | 9 | m.m | = | US\$ | 63,000 | |
| b. | Fellowships | 9 | m.m | = | US\$ | 27,000 | |
| c. | Equipments | | | = | US\$1,984,250 | | |
| | | | | | | | |
| T O T A L | | | | | | = | US\$2,074,250 |

The Details of project as follows:

5.1 COMMON FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.1.1 Nil	O H P s Video Record Players Link Line from Studios Calculators	3.0
5.1.2 Nil	Whiteboards	0.4
5.1.3 Nil	16 mm projectors Slide projectors with screens load speakers systems Slide Printers	2.1
5.1.4	L-L Equipments	1.3
5.1.5 Nil	Copy Machines	2.4
5.1.6 Nil	Studio and Lighting Equipments	2.7
5.1.7 Library	Books Audio and Video Materials Slide Materials Discotics	0.9
5.1.8 Office*	Office/Micro Computers	4.0
T O T A L		16.8

* = existing room

5.2 PROGRAM TRAINING FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.2.1 Nil	Portable Audio Recorders	8.3
	Still Cameras	
	Portable TV Cameras	
5.2.2 Nil	Audio Editing Machines	5.7
5.2.3 Nil	Video Editing Machines	13.7
	Video Animations	
	Digital Effects	
5.2.4 Nil	Physical Test Apparatus	5.4
	TV Microscopes	
	Strobo-lights	
5.2.5 Nil	Chemical Tests Apparatus	4.3
	Chemical Reagents	
5.2.6 Nil	D P E Sets	4.8
5.2.7 Nil	Tools of Store and Workshop	4.2
T O T A L		46.4

5.3 TECHNICAL TRAINING FACILITIES

Facilities	Equipments	Million Yen
5.3.1 Nil	Switchboard and Generators Measuring Instruments Working Matterials	12.1
5.3.2 Electronic Laboratories II	Training Sets Measuring Instruments	25.8
5.3.3 Nil	Training Sets of Audio Lab. and Measuring Instruments	9.4
5.3.4 Nil	Training Sets of Video Lab and Measuring Instruments	30.5
5.3.5 Nil	Training Sets of HF Lab. and Measuring Instruments	15.9
5.3.6 Nil	Training Sets of VHF Lab. and Measuring Instruments	19.6
5.3.7 Nil	Personal Computers, Training Sets of Digital Lab and Measuring Instruments	16.9
5.3.8 Nil	Tools of Workshop	1.3
5.3.9 Nil	Tools, Electronic Pars and Working Materials for Mechanics and Store	4.9
5.3.10 Transmitter Rooms*	TV Transmitters (Tube type, 1 KW) R-STL and TV-STL	20.9
5.3.11 Outdoor	Microwave Receiving Tower H F Test Antennas	2.4
T O T A L		159.7

5.4 BUILDING (1500 sq-m)

Cost Components	Million Yen
5.4.1 Direct Material Costs	67.3
5.4.2 Direct Material Costs	
5.4.3 Indirect Labour Costs	
5.4.4 Indirect Material Costs	
5.4.5 General, Facilities and Administrative Costs	
5.4.6 Transportation Costs	
5.4.7 Managerial Overheads	
5.4.8 Others	
T O T A L	<hr/> 67.3

5.5 FURNITURES

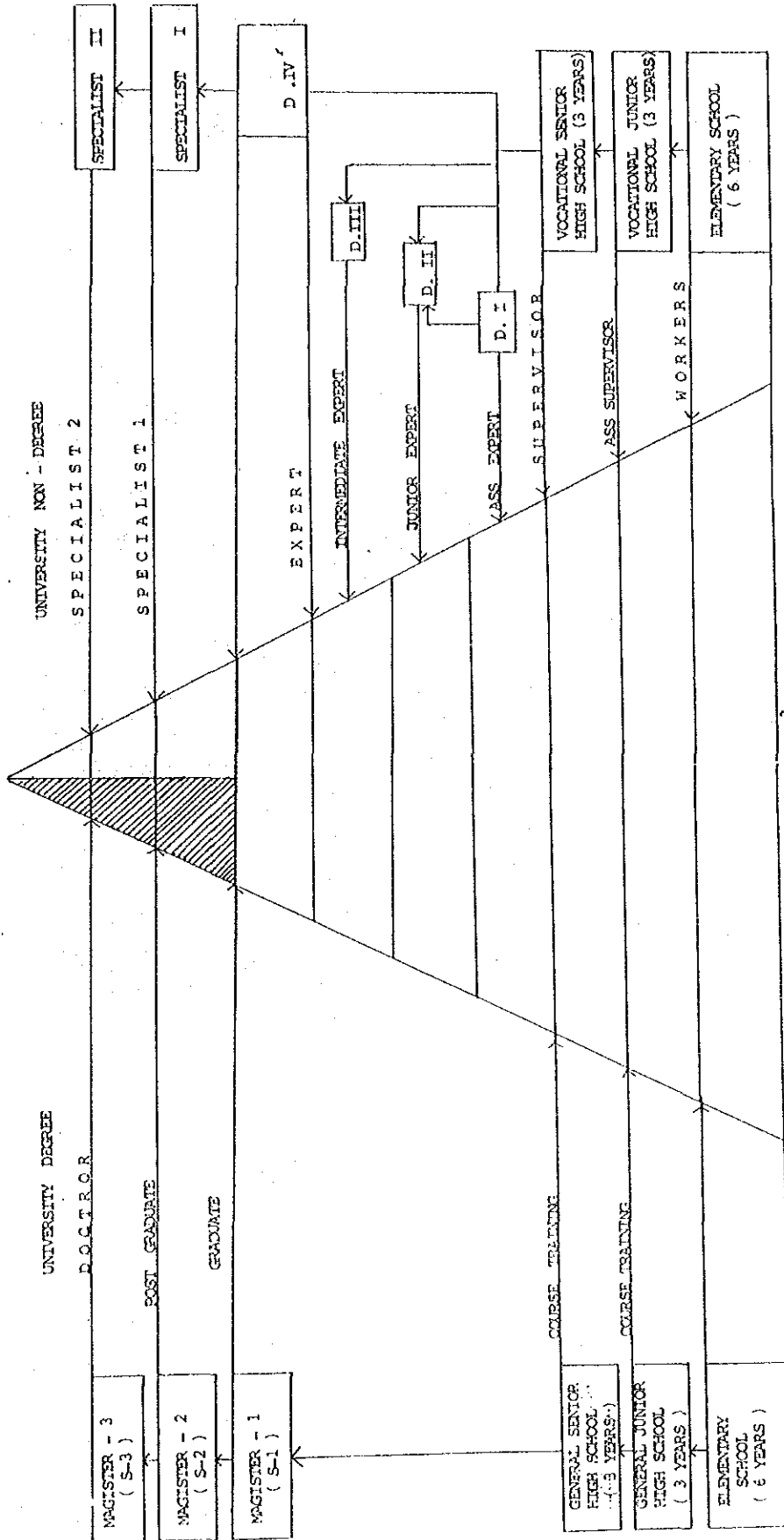
	Million Yen
5.5.1 Working Tables, Chairs etc.	21.0
5.5.2 Practicum Tables, Chairs etc.	
5.5.3 Executive Tables, Chairs, etc	
5.5.4 Filling Cabinets	
5.5.5 Others	
T O T A L	<hr/> 21.0

E S T I M A T E D B U D G E T

LEGENDS	Million Yen
5.1 COMMON FACILITY EQUIPMENTS	16.8
5.2 PROGRAM TRAINING EQUIPMENTS	46.4
5.3 TECHNICAL TRAINING EQUIPMENTS	159.7
5.4 BUILDING (1500 SQ-M)	67.3
5.5 FURNITURES	21.0
T O T A L	310.2

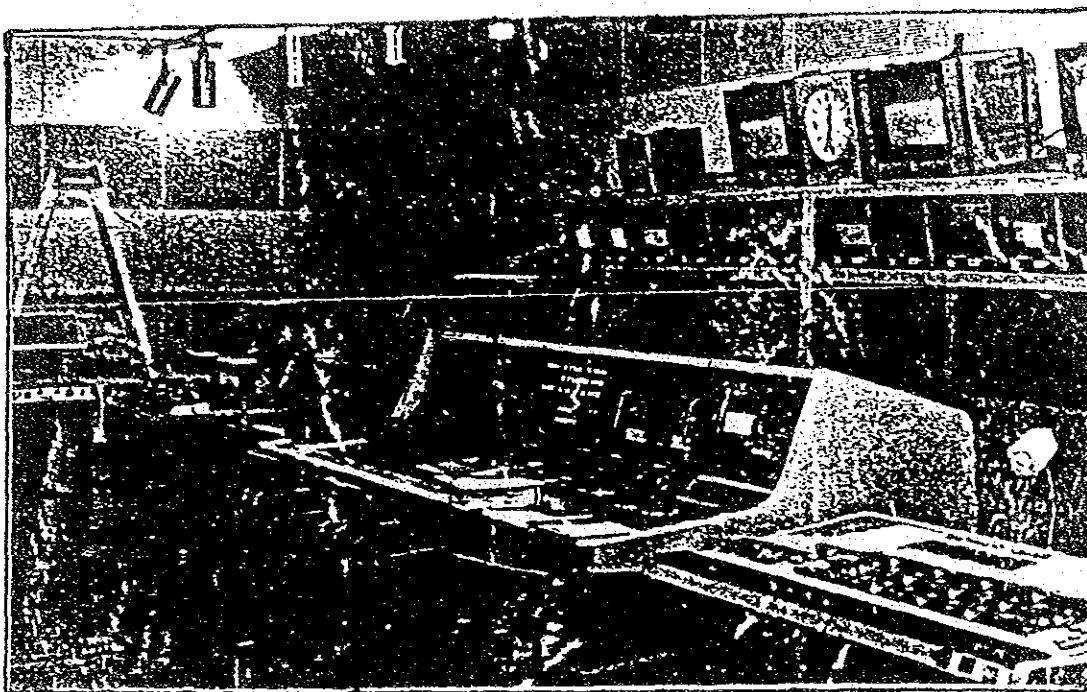
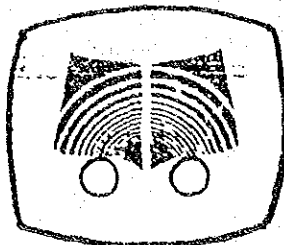
THE STRUCTURE OF EDUCATION AND TRAINING AND ITS EQUIVALENT TO THE MANAGERIAL LEVEL

UNIVERSITY DEGREE (Scholar Skill)	UNIVERSITY NON DEGREE (Professional Skill)	MANAGERIAL COURSE DEGREE (Administrative / Staff Skill)	PROJECTED LEVEL	STRUCTURAL POSITION
DOCTOR (Stratum 3 = S3)	228-233 CSS (6-22 SWS)	NATIONAL DEFENCE COLLEGE (9 Months) TERMINAL (+ 3 Years)	ECH E L O N I	SECRETARY GENERAL / DIRECTOR GENERAL / INSPECTOR GENERAL / HEAD OF LEGAL ASS MINISTER
MASTER (Stratum 2 = S2)	180-194 CSS (2-18 SWS)	STAF COLLEGE (3.5 Months) TERMINAL (+ 3 Years)	ECH E L O N II	DIRECTOR/ HEAD OF BUREAU/ HEAD OF CENTRE.
DOCTORANDUS (POST BACHELOR) (Stratum 1 = S1)	144-160 CSS (8-14 SWS)	SENIOR STAFF COURSE (3 Months) TERMINAL (+ 3 Years)	ECH E L O N III	HEAD OF SUB DIRECTORATE/ HEAD OF DIVISION
BACHELOR (Stratum 0 = S0)	110-130 CSS (8-10 SWS)	JUNIOR STAFF COURSE (3 Months) TERMINAL (+ 3 Years)	ECH E L O N IV	HEAD OF SECTION
SOPHOMORE	80-90 CSS (4-6 SWS)	SCHOLAR STAFF COURSE (3 Months) TERMINAL (+ 3 Years) FRESHMEN STAFF COURSE (3 Months) TERMINAL (+ 3 Years) PRESERVICE TRAINING	ECH E L O N V	HEAD OF SUB SECTION
FRESHMEN	40-44 CSS (2-4 SWS)		EMPLOYEES	
SENIOR HIGH SCHOOL 3 YEARS (GENERAL / VOCATIONAL)				
JUNIOR HIGH SCHOOL 3 YEARS (GENERAL / VOCATIONAL)				
ELEMENTARY SCHOOL 6 YEARS (GENERAL / VOCATIONAL)				



(Source : PEDC Bandung)

REPUBLIC OF INDONESIA
DEPARTMENT OF INFORMATION



A GLIMPSE OF
MULTI MEDIA TRAINING CENTRE
IN
YOGYAKARTA
INDONESIA

Address :

DIKLAT AHLI MULTI MEDIA /MULTI MEDIA TRAINING CENTRE
JLN. MAGELANG KM.6, YOGYAKARTA
PHONE :(0274) 86512, 86513, 86531, 86537, 86551
TELEX : 25169 YK.

STATUS.

MULTI MEDIA TRAINING CENTRE (MMTC) is an organization under the auspices of the Department of Information of the Republic of Indonesia.

INAUGURATION.

MMTC is officially inaugurated on July 31, 1983, by President of the Republic of Indonesia, Suharto, and was attended by Director General of UNESCO, Mbow, who delivered the opening lecture. On February 5, 1985, Secretary General of UN, Perez de Cuellar visited the complex.

LOCATION.

MMTC which occupies approximately 7 ha of land is located in the cultural-historical city of Special Territory of YOGYAKARTA. is wellknown as the "City of Revolution" as it was once the capital city of the embryonic Republic of Indonesia, and is also known as a "Student City", since there are many universities, state as well as private, and institutes for tertiary education.

BUDGET AND FACILITIES.

The project was financed by Japanese and Indonesian government. The facilities consist of:

Radio and TV Studio	(1867 m2)
Administration Office	(1555 m2)
Classroom	(830 m2)
Practicum Hall, Radio & TV	(105 m2)
Workshop Room	(208 m2)
Auditorium	(823 m2)
Library two storeys	(625 m2)
Canteen	(475 m2)
Housing and Dormitory	(3800 m2)
Transmission Rm/Elect. Lab	(208 m2)
Radio OB Van	1 (one)
TV OB Van	2 (two)

MOTIVATION.

The idea of MMTC has arisen since the domestic communication satellite "Palapa" was launched in 1976. It was felt that all activities of the existing media should utilize this product of sophisticated technology. One subsequent research pointed out that the knowledge of the audience in the rural areas through TV programmes on national development increased by 30,4% in 1982 compared to that in 1976.

IMPACT.

The pattern and substance of information changed significantly. The content of Radio and TV programmes should be redefined in order to meet the level education and perception of the people in urban, as well as, in rural areas, a notion which entails complex problem in technology. This

complexity of technology necessitates integrated in hardware and software provision: managers, professionals and technicians should operate as a team. At least they will meet when integration is needed to develop skills, to exchange informations and to modify attitudes.

OBJECTIVES.

MMTC has the objective to give education and training for Information Engineers in the spirit of national and character building based on "Pancasila" philosophy. The education aims at specialization, in applicable in one profession tailored to his employable skill, in the field of communication and information, within the framework of nuances on all kinds media science.

DEVELOPMENT.

MMTC offers the following study programs leading to Diploma I, II, III and plans to offer studies leading to Diploma IV, Specialist I and II (post graduate study). The programs match with university degrees in Indonesia's education system. MMTC is, now, running the College of Radio and TV, and will be expanded to College of Film and Video, College of Journalism and Publishing and College of General Informations. MMTC may share her facilities to other

regional and international education and training institute.

ACHIEVEMENT.

In applying multi media approaches in education and training it is hoped that progress and development of the country will be stimulated to foster the socio-cultural resilience.

College of Radio and TV.

DIPLOMA I (D.I) PROGRAM: One year.

Majoring Areas	Credit Semester
1. Programmes Compilation Planning	(40-50)
2. Program Lines Production	(40-50)
3. News and Current Affairs Reporting	(40-50)
4. Studio and Master Control technic Operation	(40-50)
5. Transmission Operation	(40-50)

DIPLOMA II (D.II) PROGRAM: two years.

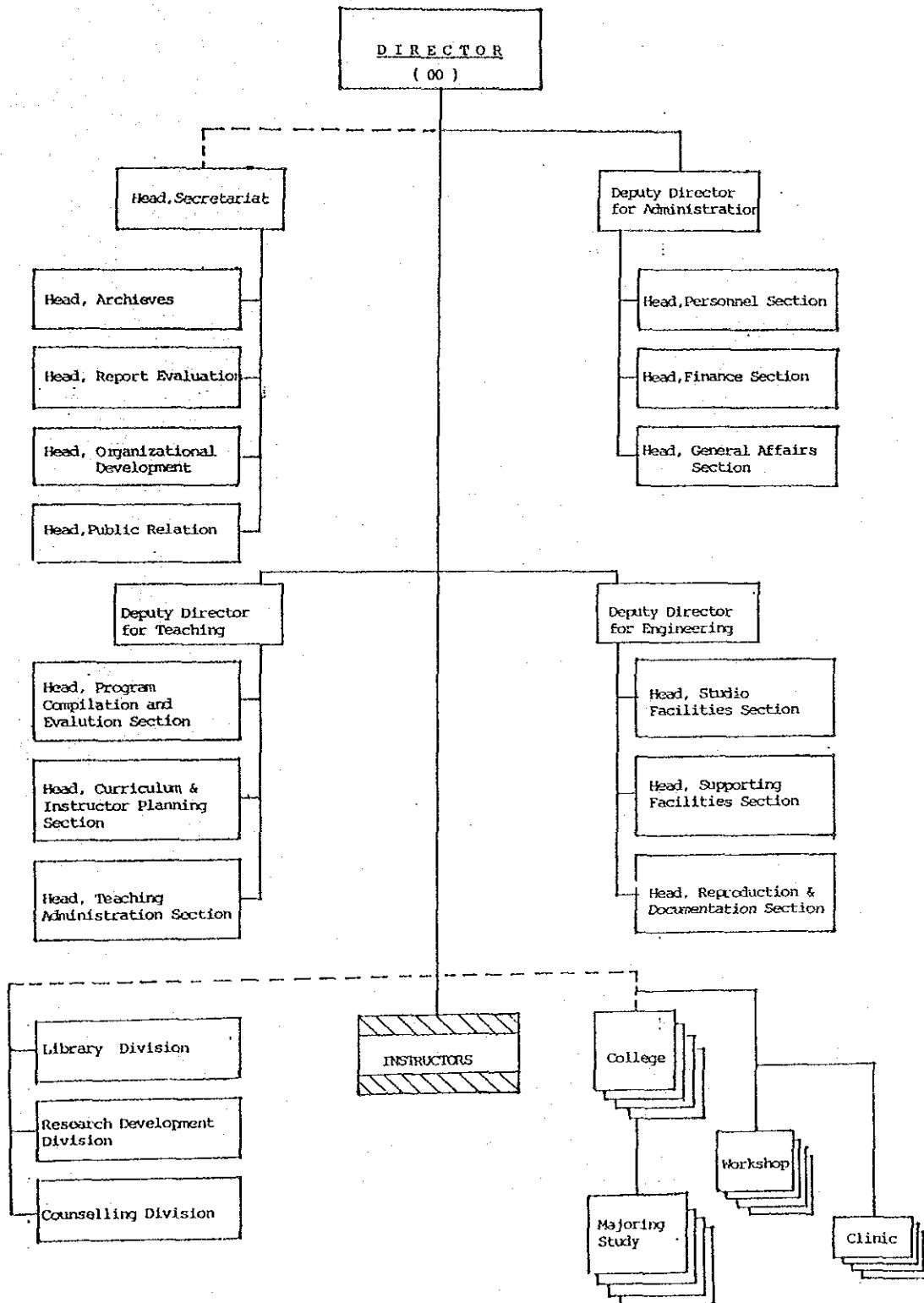
1. Programmes Broadcasting Planning	(80-90)
2. Program Package Production	(80-90)
3. Broadcast Journalism	(80-90)
4. Script/Story Writings	(80-90)
5. Broadcasting Performance	(80-90)
6. Studio Production Technic	(80-90)
7. Transmission Technic	(80-90)
8. Technical Repair	(80-90)

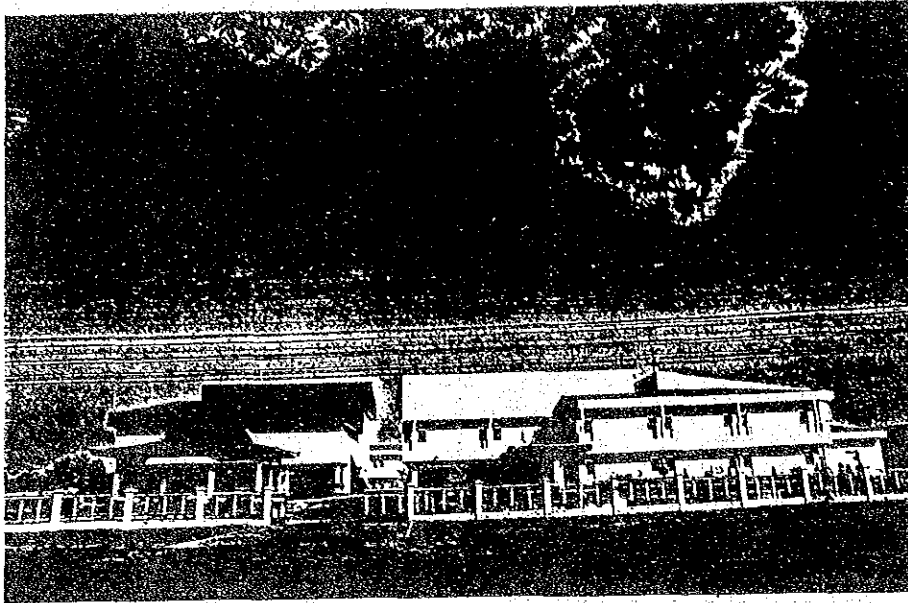
DIPLOMA III (D.III) PROGRAM: Three years.

1. Broadcasting Management	(110-120)
2. Program News and Information Productions	(110-120)
3. Program Education and Religion Productions	(110-120)
4. Program Cultural and Entertainment Productions	(110-120)
5. Technical and Artistic Production Designs	(110-120)
6. Scenario and Storyboard Writings	(110-120)
7. Public Speech and Drama Castings	(110-120)
8. Apparatus Engineering	(110-120)

- 9. Open Studio and Mobile Production Engineering (110-120)
- 10. Satellite and Terrestrial Transmission Engineering (110-120)
- 11. Maintenance (110-120)

ORGANIZATION CHARTS OF
MULTI MEDIA TRAINING CENTRE
YOGYAKARTA



**LATAR BELAKANG**

Pentingnya peranan penerangan dan komunikasi dalam kehidupan politik, ekonomi, sosial dan budaya suatu bangsa sudah nyata-nyata diakui, baik oleh para ilmuwan maupun praktisi.

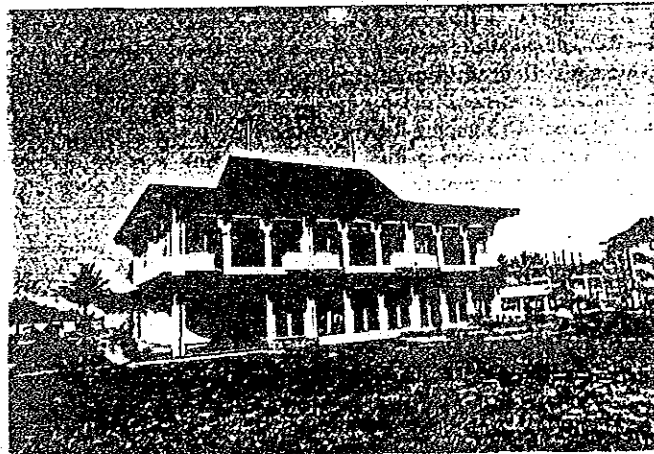
Di Indonesia, tanggung jawab utama atas bidang tersebut terletak di tangan Departemen Penerangan yang bertugas merencanakan, mengatur, membina serta melaksanakan penyebar-luasan penerangan melalui radio, televisi, film, pers dan media lainnya.

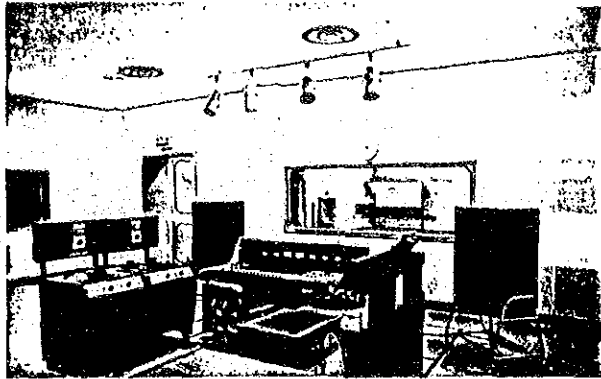
Tanggung jawab itu semakin nampak besarnya bila diingat bahwa salah satu tugas penting media massa di Indonesia, sebagaimana di negara-negara yang sedang membangun, adalah membangkitkan kemauan masyarakat untuk ikut serta dalam proses pembangunan nasional. Sebagaimana dinyatakan dalam GBHN, keberhasilan pembangunan nasional tergantung pada keterlibatan serta partisipasi rakyat.

BACKGROUND

The important role of information and communication in the political, economic, and social life of a nation is widely recognized. The Department of Information is the principal agency in information and mass communication activities in Indonesia. It has general and special responsibility for the design, content and propagation of any kind of information through radio, television, film, press and other media.

The responsibility can be considered a highly significant task. It is so, mainly because one of the important duty of mass media in Indonesia is to stimulate social participation in national development. While, as stated in the General Guidelines of the State Policy, the success of national development efforts mainly depends on the involvement and participation of the people.





Meningkatnya volume tugas-tugas penerangan saat ini dan terlebih lagi di masa mendatang, sejalan dengan perkembangan dinamika masyarakat Indonesia serta semakin canggihnya teknologi komunikasi (khususnya media massa elektronik), menuntut peningkatan jumlah dan mutu petugas penerangan. Sehubungan dengan hal tersebut, Departemen Penerangan RI telah melakukan berbagai usaha penyelenggaraan pendidikan dan latihan pegawai, baik yang bersifat "diklat jenjang karier" maupun "diklat teknis fungsional" untuk meningkatkan kemampuan dan ketrampilan pegawainya.

Sampai saat ini diklat teknis fungsional telah diselenggarakan secara melembaga oleh Balai Diklat Radio dan Balai Diklat Televisi. Namun, kemampuan kedua Balai Diklat tersebut sampai sekarang dirasakan belum memadai untuk dapat mengimbangi meningkatnya kebutuhan tenaga trampil baik kuantitatif maupun kualitatif. Hal ini antara lain disebabkan oleh perluasan jaringan siaran radio dan televisi yang sangat pesat dan perkembangan teknologi peralatannya. Disamping itu perlu secara terus-menerus diusahakan pengembangan dan peningkatan mutu maupun isi siaran radio dan televisi sebagai media penerangan, pendidikan dan hiburan dalam menunjang pembangunan untuk tercapainya kesejahteraan dan kemajuan bangsa Indonesia.

TUJUAN

Mengingat kebutuhan yang ada, dirasa perlu segera disusun satu sistem pendidikan dan latihan keahlian yang komprehensif, terpadu dan sistematis. Dengan keterpaduan pendidikan dan latihan diharapkan efisiensi dalam penggunaan sarana Diklat akan tercapai. Di samping itu, dapat tercipta pola berpikir yang sama, Di samping itu, dapat tercipta pola berpikir yang sama, pengembangan metode kerja yang lebih baik, kerjasama pelaksanaan tugas yang lebih serasi dengan ketrampilan yang merata serta pengabdian pegawai di bidang-bidang profesinya masing-masing. Juga diharapkan penugasan/perpindahan secara fungsional horizontal akan lebih mudah dilakukan sehingga pengembangan karir secara vertikal dapat diarahkan agar lebih sesuai dengan kemampuan, ketrampilan dan bakat setiap tenaga fungsional.

As the volume of information tasks at present and in the future increases along with the dynamic growth of the Indonesian society and the more sophisticated communication technology, it is deemed necessary to have a comprehensive and integrated training program. In meeting the demand for more skilled personnel, the Department of Information has made efforts to provide better trainings for its officials. The training programs for information officers include a program for career promotions and a technical training program for developing their technical and operational skills.

Up to now, technical trainings have been provided by the Radio Training Center and the Television Training Center. But, considering the increasing demand for more skilled information personnel, quantitatively as well as qualitatively, it is becoming harder for both institutions to meet the demand. The increasing demand is interalia brought about by the expansion of radio and television broadcast coverage, and the more advance and sophisticated equipment. Besides, there is a need to develop and increase the functions of radio and television as media of information, education and entertainment to support the national development, in the frame work of achieving a prosperous Indonesian society.

OBJECTIVES

In meeting the demand for more skilled information officers, a comprehensive, systematic and integrated training program has to be set up. By such program, it is expected to get an optimal use of the training center's facilities; besides, to develop a more efficient working method and a more harmonious cooperation among officers based on a spirit of professional dedication. It is also hoped that horizontal mutation and vertical career promotion of the information officers will be more easily executed, considering their abilities and skill to meet the proper assignment.

KONSEP DIKLAT TERPADU

Bertitik tolak dari pemikiran tersebut, Departemen Penerangan menetapkan untuk mengembangkan satu konsep Pendidikan dan Latihan Terpadu di Bidang Media Penerangan (Multi Media Training Centre). Dengan konsep yang terpadu dan komprehensif tersebut diharapkan akan dapat dijawab tantangan dibidang penerangan sehubungan dengan :

- a. perkembangan dan perluasan jaringan siaran radio, televisi, film, media cetak, dan media lainnya untuk menunjang pembangunan nasional dan upaya membudayakan Pancasila.
- b. perkembangan dan kemajuan teknologi yang begitu cepat dan susul-menyusul, khususnya di bidang komunikasi dan informasi.

Dalam penyusunan konsep pendidikan dan latihan tersebut di atas, pada tahap awal Departemen Penerangan dibantu tenaga ahli dari Jerman Barat (lewat Bantuan Teknis Pemerintah Jerman Barat). Setelah melakukan study selama satu setengah tahun, tim tadi menghasilkan sebuah buku paduan yang berjudul *Guidelines and Supporting Information for the Development of an Integrated Multi Media Training Center/Basic Training Center Radio-TV-Film in Yogyakarta*.

Konsep diklat yang tercantum dalam buku ini, baru mencakup bidang radio, TV dan film yang setara dengan program DI, sebagaimana tergambar dalam kerangka berikut :

TABLE : A

TABLE : A

								Minggu (Week)	
								0 — 4 — 13 — 19 — 29 — 43 — 47	
Pedagogic Organization Course for Evaluation (Organisasi Pendidikan Gabung Evaluasi Kejuruan)	Introduction into Technical Training and Production of Radio, Television and Film (Dasar umum Pengajaran teknik dan produksi Radio - Televisi dan Film)	Field Work (Organisasi Lapangan)	Radio-Television and Program and Production Program and Production Radio, Television and Film	PROGRAMA RADIO-TELEVISI	2	Evaluation and Recommendation for strengthening of institutions (Evaluasi dan Rekomendasi Penguatan Lembaga)	Evaluation and Recommendation for strengthening of institutions (Evaluasi dan Rekomendasi Penguatan Lembaga)	Evaluation and Recommendation for strengthening of institutions (Evaluasi dan Rekomendasi Penguatan Lembaga)	Evaluation and Recommendation for strengthening of institutions (Evaluasi dan Rekomendasi Penguatan Lembaga)
				PRODUKSI FILM TELEVISI-FILM	2				
				PROGRAM KUTIPAN RADIO-TELEVISI	2				
				PEMBERITAAN RADIO-TELEVISI	2				
				TEKNIK PERMALAN RADIO-TELEVISI	2				
				TEKNIK PERMALAN PRODUKSI FILM PERSA PRODUKSI FILM -TELEVISI-FILM	2				
TEKNIK PERMALAN KANSAS RADIO-TELEVISI	2								
BASIS I DASAR I	BASIS II DASAR II	BASIS III DASAR III							

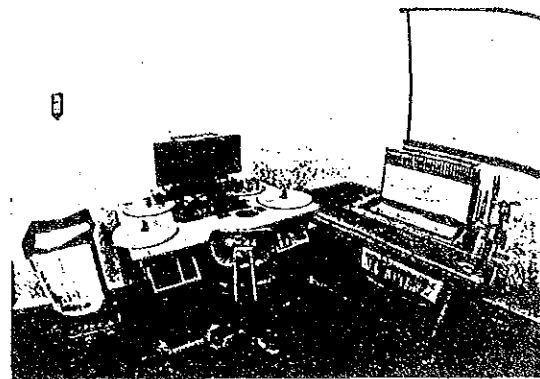
AN INTEGRATED TRAINING CONCEPT

With these objectives in mind, the Department of Information decided to set up a Multi Media Training Center. By applying the integrated and comprehensive training concept, it is intended to face and overcome the following challenges in the information sector:

- a. The development and expansion of radio dan television broadcast coverage, and the development of print and other information media to support the national development plan and popularizing the State Ideology Pancasila.
- b. The fast development of technology, particularly in the field of communication and information.

In the initial stage of setting up the integrated concept, the Department of Information cooperated with experts from the Federal Republic of Germany through German Technical Assistant. After an observation periode of 1.5 years, the German Team set up a handbook titled *Guidelines and Supporting Information for the Development of an Integrated Multi Media Training Center/Basic Training Center Radio-TV-Film in Yogyakarta*.

The structure of the training concept, which is comparable to D-I program, is presented here. This time, it is applicable only for radio, TV and film trainings. In the near future, will be completed to cover all other media trainings.



Sebagai tindak lanjut konsep yang tertuang dalam buku tersebut di atas, maka disusun Rencana Induk Diklat Terpadu di Bidang Radio, TV dan Film yang menyangkut rancangan perang-perangkat lunak dan prarancangan perangkat keras. Pelaksanaan penyusunan tersebut dilakukan oleh konsultan Indonesia bekerjasama dengan tenaga senior dan pejabat teras Departemen Penerangan. Dalam hubungan itu, Pemerintah Jepang menyatakan minatnya untuk membantu realisasi pembangunan fisik (bangunan dan peralatan) diklat khususnya untuk bidang radio dan TV. Langkah selanjutnya adalah peninjauan tim Jepang ke Indonesia dan tim Deppen RI ke Jepang. Kemudian, Rancangan Dasar Pembangunan Proyek Diklat Radio dan Televisi yang disusun oleh tim Jepang (Japan International Cooperation Agency, JICA) disetujui oleh Departemen Penerangan.

Berdasarkan Rancangan Dasar tersebut Pemerintah Jepang pada tanggal 20 Agustus 1982 menyetujui bantuan hibah (grant aid) sebesar Y 1,8 milyar untuk pembangunan sarana dan peralatan diklat di bidang radio dan TV yang merupakan tahapan pertama Diklat Terpadu Multi Media. Bantuan ini digunakan untuk biaya pembangunan sarana gedung seluas 5.445 meter persegi dan peralatan untuk biaya konsultan bangunan.

Untuk membangun sarana dan prasarana diklat sesuai dengan Rencana Induk, dana grant aid tersebut tidak mencukupi.

Kekurangannya ditutup dengan dana Anggaran Pembangunan (DIP) Deppen. Sejak tahun anggaran 1981/1982 - 1985/1986, dana dengan jumlah seluruhnya Rp. 5.732.095.000,00 telah digunakan untuk pembangunan sarana dan prasarana antara lain pembebasan tanah seluas 69.462 meter persegi, pembangunan gedung auditorium, perpustakaan, asrama siswa, wisma instruktur, rumah pimpinan, kantin, gedung olahraga, dan mushola, dengan luas lantai seluruhnya 9.639 meter persegi serta pembuatan jalan, lapangan parkir dan lain-lain.

Dengan demikian, pembangunan sarana dan prasarana latihan merupakan implementasi kerjasama yang saling mengisi antara Pemerintah Jepang dan Pemerintah Indonesia. Hal ini tercermin di dalam arsitektur bangunan

CONSTRUCTION

Following the training concept, a master plan for an integrated radio, TV and film training concerning the design of the media's software and hardware was set up by an Indonesia consultant in cooperation with senior officials of the Department of Information. In the meantime, the Japanese government offered a hand to support the materialization of the program, particularly on its physical aspects (building and equipment) to benefit radio and TV training. The implementation of the offer was an exchange of experts between both countries. Then, the basic design for the construction of a radio and TV training was set up by a Japanese team (Japan International Cooperation Agency, JICA) and was approved by the Department of Information.

Based on the basic design, on August 20, 1982, the Japanese government agreed to provide a grant aid of Yen 1.8 million for constructing a radio and TV training, which is the Phase I of the Multi Media Training Center. This grant aid was spent on the construction of a 5,445 square meter building, equipment, and installation, and also for consultation cost. The aid provided could not cover the entire construction cost. The budget shortage was supplemented from the Information Department's budget for projects.

During the fiscal year 1981/82 - 1985/86 a fund of Rp 5,732,000 has been spent on construction work and facilities comprising: 69,462 square meter land purchase; construction of an auditorium, library, student dormitory, instructor housing complex, housing for the training center's directors, cafeteria, sport-hall and a mosque, with a total of 9,639 square meter; construction of roads and parking lots, etc.

The Phase I of the Multi Media Training Center was completed on July 1985 by a cooperation between the Indonesian and Japanese governments, as reflected in the Center's architecture. As the follow up of the Japanese

Multi Media Training Centre.

Sebagai lanjutan dari grant aid di bidang perangkat keras, Pemerintah Jepang juga memberi bantuan teknis sebesar 350 juta Yen untuk jangka 5 (lima) tahun mulai tahun 1983/84.

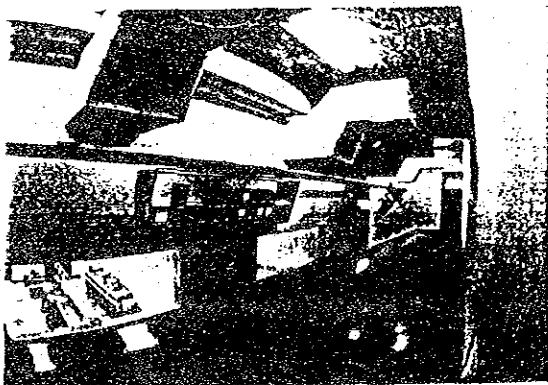
Bantuan teknis tersebut meliputi bantuan tenaga ahli untuk mengembangkan kurikulum, metode pengajaran dan administrasi diklat, pendidikan tenaga pengajar di Jepang, serta bantuan peralatan pendidikan dan latihan untuk melengkapi pengoperasian diklat dimaksud.

KAPASITAS

Mengingat jangkauan konsep diklat terpadu ini sangat luas kompleks, pelaksanaannya dilakukan secara bertahap. Dalam Tahap I, sesuai dengan sarana pendidikan dan latihan yang tersedia, Pendidikan dan Latihan Ahli Multi Media (MMTC) akan dapat menyelenggarakan diklat keahlian bidang radio dan televisi dengan jumlah peserta 240 orang per tahun. Setelah pengembangan sarana pendidikan dan latihan Tahap II yang meliputi Studio Latihan Radio FM (Frequency Modulation), Studio Kedua Latihan TV dan Studio Latihan Produksi Film serta pengadaan peralatan yang diperlukan selesai dipasang, kapasitas MMTC akan mencapai 576 orang per tahun. Sedangkan dalam Tahap III direncanakan akan dicakup diklat di bidang media lainnya (media cetak dan media tatap muka).

Selain bagi tenaga-tenaga fungsional dari lingkungan Departemen Penerangan, Diklat Ahli Multi Media juga akan menyelenggarakan diklat khusus bagi tenaga teknis fungsional siaran dan teknik radio/televisi dari negara-negara nonblok sebagaimana telah ditawarkan oleh Indonesia dalam sidang Cominac di Jakarta pada permulaan tahun 1984 yang lalu.

Kurikulum untuk diklat-diklat ini akan disusun secara khusus sesuai dengan kebutuhan negara-negara nonblok. Penyusunannya akan dilakukan dengan bekerjasama dengan lembaga-lembaga pendidikan dan latihan di bidang radio dan TV di luar negeri antara lain AIBD (Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development) di Kuala Lumpur, NHK Training Centre di Tokyo, BBC Training Centre di London dan sebagainya.

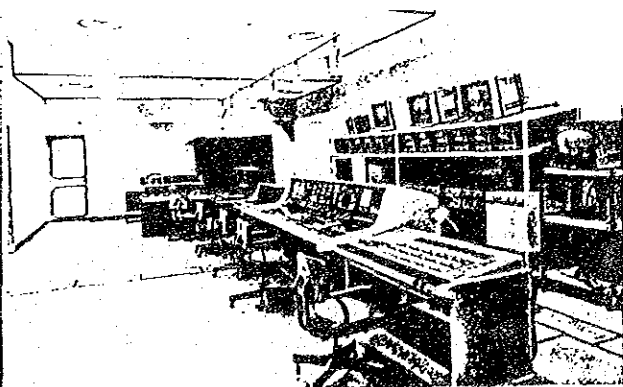


grant aid for hardware, there is also a technical aid comprising 350 million Yen for a periode of five years, starting from 1983/1984. The technical aid includes expert assistance for curriculum development, training methods and training center administration, scholarship for Indonesian instructors to study in Japan, training aids to benefit a smooth management of the training center.

CAPACITY

With a view to the training program's wide scope, its realization will be carried out by stages. In Phase I, the MMTC offers training facilities for radio and TV personnel for 240 trainees a year. After the completion of Phase II, with the additional of an FM radio studio, a television studio and a laboratory for film production, the center will provide training facilities for radio, TV and film, and the capacity will be 576 trainees per annum. In the Phase III, it will provide training for the print and the face-to-face media.

The MMTC also offers training facilities for radio and TV personnel of non-aligned countries as offered by Indonesia on the occasion of the Conference of Ministers of Information of the Non-Aligned Countries held in Jakarta at the beginning of 1984. A special curriculum will be set up for the training to meet the needs of non-aligned countries. The setting up the curriculum will be done in cooperation with radio and TV training institutions from foreign countries such as the Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development in Kuala Lumpur, NHK Training Center in Tokyo, BBC Training Center in London, etc.





PRESIDEN
REPUBLIC INDONESIA

SAMBUTAN PRESIDEN
PADA UPACARA PERESMIAN
LEMBAGA PENDIDIKAN DAN LATIHAN AHLI
MULTI MEDIA
PADA TANGGAL 31 JULI 1985
DI YOGYAKARTA

AN OPENING ADDRESS OF THE PRESIDENT
ON THE INAUGURATION OF THE
MULTI MEDIA TRAINING CENTER
JULI 31, 1985
YOGYAKARTA.

Saudara-saudara;

Sebentar lagi, saya akan meresmikan Lembaga Pendidikan dan Latihan Ahli Multi Media, Departemen Penerangan.

Dalam tahap pembangunannya yang sekarang, lembaga ini akan mendidik tenaga-tenaga teknis siaran serta teknik radio dan televisi. Dalam tahap pembangunan selanjutnya, lembaga ini juga akan mendidik tenaga-tenaga penerangan di bidang media lainnya, yaitu media film dan media cetak.

Tenaga-tenaga itu kita perlukan untuk mengembangkan tugas-tugas penerangan yang sebaik-baiknya, dalam rangka pengembangan komunikasi sosial yang sehat dan segar.

Kita semua berharap mudah-mudahan lembaga ini kelak dapat menghasilkan tenaga-tenaga di bidang penerangan yang mempunyai pengetahuan dan ketrampilan yang dapat diandalkan serta memiliki semangat dan pengabdian yang tinggi.

Kita memang perlu terus membangun aparat penerangan kita. Sebab, penerangan merupakan bagian dari tugas pembangunan bangsa kita.

Saya katakan merupakan bagian dari tugas pembangunan bangsa kita, karena tujuan penerangan adalah untuk membantu masyarakat memahami persoalan-persoalan pokok yang bersama-sama kita hadapi, untuk menjelaskan kepada masyarakat usaha-usaha apa yang kita laksanakan dalam menghadapi persoalan-persoalan itu dan arah mana yang kita tuju.

Melalui penerangan masyarakat harus tahu hasil-hasil apa yang akan kita peroleh dengan melaksanakan setiap tahap pembangunan. Malahan, masyarakat pun harus tahu apa yang belum mungkin kita capai pada suatu saat. Masyarakat juga harus tahu kesulitan-kesulitan yang kita hadapi.

Ladies and Gentlement,

The Multi Media Training Centre of the Ministry of Information will be opened soon.

In its present development stage, the training center provides training facilities for radio and TV personnel. In another stage of its development, the center will offer training facilities for information officers of the film and print media.

Information officers are much needed in developing a healthy communication atmosphere in society.

It is hoped for that graduates of this center will master a sound knowledge and skill and show up a dedication to their profession.

The nation will continue developing its information sector as it is part of the nation building.

As I have just said, it is part of the nation building for the ultimate aim of information is to help the people to become more aware on development problems that must be overcome and help them to develop an understanding on the continuous efforts being carried out to achieve its objectives.

The people should also be informed on the progress achieved in development stages. They should also be informed that the realisation of some ideals is still beyond our present capacity and realize on the problems that we have to cope with.

Dalam pembangunan yang menggarap dan memperbaiki semua segi kehidupan bangsa ini, kita memang sedang menghadapi dan akan terus menghadapi persoalan-persoalan pembangunan yang tidak kecil jumlahnya. Keberhasilan pembangunan tergantung pada kebersihan kita dalam mengatasi persoalan-persoalan tadi.

Agar kita berhasil dalam mengatasi persoalan-persoalan pembangunan yang kita hadapi, maka persoalan-persoalan itu harus kita rasakan sebagai tanggung jawab bersama dan kita atasi secara bersama pula. Bangsa kita akan sulit menjadi bangsa yang maju dan sejahtera kita tidak mampu memikul beban pembangunan dan tidak dapat melaksanakan pembangunan bagi kemajuan dan kesejahteraan kita sendiri. Karena itu di samping modal, kekayaan alam dan ketrampilan, maka kemauan dan usaha kita semua akan sangat menentukan keberhasilan pembangunan kita itu.

Kemauan untuk membangun akan dapat timbul jika rakyat tahu bahwa pembangunan itu adalah untuk kepentingan mereka, apabila arah dan tujuan pembangunan itu sesuai dengan keinginan mereka, apabila mereka mengetahui bahwa apa yang mereka kerjakan sekarang akan menjamin kesejahteraan mereka di masa datang. Untuk membangkitkan kemauan membangun ini penerangan mempunyai peranan yang sangat penting.

Tugas-tugas penerangan di masa yang akan datang akan lebih berat dan rumit. Di satu pihak, karena masalah-masalah kemasyarakatan yang kita hadapi juga akan bertambah rumit dan luas; sedang di lain pihak, masyarakat kita makin cerdas, makin kritis dan makin dinamis.

Untuk itu, selain perlu dibangun berbagai sarana, juga diperlukan tenaga-tenaga penerangan yang memiliki pengetahuan dan ketrampilan yang dapat diandalkan. Dengan demikian, maka penerangan kepada masyarakat dapat diberikan secara cepat dan tepat. Tanpa tenaga penerangan yang memiliki pengetahuan dan ketrampilan yang tinggi, maka peralatan-peralatan moderen yang kita bangun, tidak akan banyak gunanya.

Bagi bangsa kita yang sedang berjuang untuk membangun dirinya, tenaga penerangan yang memiliki pengetahuan dan ketrampilan yang tinggi saja tidaklah cukup. Sebab, untuk memberikan penerangan kepada masyarakat yang sedang berjuang diperlukan aparat penerangan yang memiliki semangat juang yang tinggi pula. Penerangan yang diberikan oleh aparat penerangan yang tidak memiliki semangat juang yang tinggi, tidak akan berkesan di hati masyarakat.

Kita merasa bersyukur, bahwa aparat penerangan kita memiliki sejarah perjuangan yang gemilang. Dalam media cetak yang dimotori oleh para wartawan, misalnya, kita mengenal Persatuan Wartawan Indonesia yang lahir ditengah-tengah kancah perjuangan untuk mempertahankan kemerdekaan bangsa. Hal ini menunjukkan bahwa media cetak tersebut memang merupakan kekuatan perjuangan bangsa. Dalam sejarah perjuangan kita RRI -- yang sekaligus menjadi "cikal bakal" TVRI -- juga memiliki peranan yang tidak kecil dalam perjuangan

A development process that includes all sectors of life brings with it quite a number of problems, while the success of development is determined by our capacity in finding a solution to the problems. That's why the problems should be met by all of us with great responsibility in the effort to solve them.

It will be difficult for our nation to become an advanced and prosperous nation if we are not able to shoulder the development burden and can not implement development for our own prosperity and welfare. Besides capital, natural wealth and skill, the willingness and efforts of all of us will greatly determine the success of our development.

The willingness to develop will emerge if the people are conscious that development is for their benefit, if the direction and the aims of development are in accordance with their desires and if they find out that what they are doing at present will guarantee their welfare in the future. And information plays a significant role in cultivating this willingness.

The future role of information will be more difficult, because in one hand social problems will increase and on the other the public is getting more critical.

Regarding the condition and considering that information should be extended to the people with proper methods; skilled and well trained information personnel the available sophisticated equipment will be useless.

But a developing nation does not only need skilled and well trained information officers but also those with high fighting spirit. Information spread by information officers without high development spirit would not attract the public.

We must be grateful to our information officials who had a glorious historic struggle. The print media was pioneered by newsmen from the Indonesia Journalist Association founded in the midst of the national struggle for independence. And the Radio Republic Indonesia from which TVRI has sprung up has also a significant role in the struggle for independence.

With its modest facilities the Radio Republic Indonesia stirred the nation's spirit in the fight against colonialism. It is evident that the Radio Republic Indonesia is an integral

bangsa. Dalam zaman Perang Kemerdekaan dahulu, walaupun dengan peralatan yang sangat sederhana, RRI tidak pernah absen dalam menggelorakan semangat bangsa Indonesia untuk berjuang mengusir kaum penjajah yang ingin mencengkeramkan kembali kekuasaannya di Tanah Air kita. Hal ini juga menunjukkan bahwa RRI merupakan bagian yang tak terpisahkan dari sejarah perjuangan kemerdekaan Indonesia, dan sekaligus merupakan kekuatan perjuangan.

Saya berharap agar tenaga-tenaga yang dididik di lembaga ini dapat mewarisi semangat juang yang telah ditunjukkan pendahulu-pendahulunya. Sebab, pembangunan kita juga memerlukan semangat juang yang tinggi.

Mudah-mudahan, Yogyakarta yang menjadi Ibukota Perjuangan kita dahulu, dapat memberi inspirasi dan kobaran semangat pejuang pembangunan bagi setiap siswa lembaga ini.

Kepada Pemerintah Jepang yang telah memberikan bantuan peralatan untuk pembangunan Lembaga Pendidikan dan Latihan Ahli Multi Media ini saya atas nama Pemerintah menyampaikan ucapan terima kasih dan penghargaan yang setinggi-tingginya.

Akhirnya, dengan ini saya nyatakan Lembaga Pendidikan dan Latihan Ahli Multi Media ini secara resmi dibuka.

Semoga Tuhan Yang Maha Esa senantiasa melimpahkan rahmatNya kepada kita semua.

Terima kasih.

part in the struggle for independence and is a fighting force as well.

I sincerely hope that information graduates of this center would inherit the attributes of fighting spirit of their predecessors, as our development also needs a fighting spirit.

Hopefully the city of Yogyakarta, which formerly was the center for the struggle of independence will be able to inspire and in still each student here with a development spirit.

On behalf of the Indonesian government I here with extend my gratitude and highest appreciation to the Japanese government that has provided the Multi Media Training Center with the necessary facilities.

And here with I declare the Multi Media Training Center officially open.

May God the Almighty grant us his blessings.

I here with thank the audience for their attention.

Yogyakarta, 31 Juli 1985
PRESIDEN REPUBLIK INDONESIA,

SOEHARTO

プロジェクト実績線表

細目		58				59年				60年				61年				62年				63年															
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
専門 家 派 遣	リーダー 番組編成					5/16				白石克己												5/15															
	番組制作					7/2				坂元多												7/1															
	報道					7/2				磯部洋一郎				7/1	7/12							福岡薫								7/11							
	進行技術					7/2				岡田修一郎				7/1	9/30							加藤勉								9/29							
	放送技術					6/15				佐藤文雄												6/14															
	制作技術					7/2				伊藤見二	9/12			6/18				館和夫	6/17																		
	業務調整					5/30				柴田信二				5/29				浦上浩三																			
短期									渡辺晋太郎 11/18→1/18 (運営管理)	渡辺晋太郎 6/10→9/9 (運営管理)			島山哲夫 1/27→3/26 (現像)				9/30→11/29 高梨二三夫(ニュース編集)				9/30→11/29 竹内正明(スタジオ照明)																
									斎藤博己 12/8→1/17 (美術)				稲田正康 3/13→5/12 (放送資料)				11/4→遠藤芳朗(電力設備保守) 12/3																				
※調査団	実施協議 10/12→10/22 R/D21日締結									計画打合せ 11/25 12/2			巡回指導 12/12 12/21				計画打合せ 9/11 9/20																				
リーダー会議									白石克己				白石克己								白石克己																
カウンターパート研修									Kosasih 1/19→4/15 (テレビ放送技術)	Sugiyarto KD 7/19→10/30 (放送管理)			Syahrir Kandung 7/18→11/3 (TV制作技術)				Romain Rusdi 8/5→10/6 (教育テレビ番組)																				
									Tugiyo 1/19→4/15 (テレビ放送技術)	Sjahan Nasution 8/2→10/30 (放送管理)			Iriandi 7/18→11/3 (音響技術)				Elvi Lisiorini 1/16→3/13 (放送ライブラリー)																				
									Harim Nasir 1/19→4/15 (教育テレビ番組)	Bagus Mohamad 8/2→10/30 (教育番組)	Prayoga		Indrati Muandari 8/1→11/3 (番組編集)				Mooriantoro 1/18→3/31 (テレビ放送技術)																				
									Ananto Pratikno 1/19→4/15 (教育テレビ番組)		Harmen Hary 2/7→4/30 (テレビ・グラフィック・デザイン)		Bambang Winarso 8/1→11/3 (番組制作)				Bambang Witono 1/18→4/5 (教育テレビ番組)																				
											Togar Lamban Radja 3/7→4/30 (管理運営)						Maurice Simatupang 3/20→5/21 (ニュース、放送研修管理)																				
訓練	Basic II, III												7/22→12/18																								
	Diploma I															4月						4月							4月								
その他												7/30 ディプロマプログラム導入 7/31 センター開所				12/1-12/3						アジア教育放送シンポジウム															

※ 事前 57. 6. 10 ~ 57. 6. 23

JICA